

# Canon

# EOS-3



  
EYE CONTROL

使用説明書

  
日本語版



# キヤノン製品のお買いあげありがとうございます。

EOS-3は世界初の視線エリアAF機能を搭載した高性能AF一眼レフカメラです。簡単な自動撮影から高度な応用撮影まで、さまざまな撮影状況に最適対応する豊富な機能を備えていますが、使い方は、高級EOSカメラ共通の電子ダイヤル操作を基本とするシンプルな形にまとめてあります。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、各操作に慣れたうえで正しくお使いください。

## ● ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行など大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することを確認してからお出かけください。
- EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用するとカメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。ご注意ください。また、EOSと他社製品とを組み合わせるとお使いになって生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

## ● 本文中の以下のマークのついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

 : 故障などカメラに不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。

 : カメラを操作する上で基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

 : カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

- 撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、10ページの「カメラ取り扱い上のご注意」もお読みください。
- 読み終えた使用説明書は必要な時いつでも取り出せる場所において、ご活用ください。

	安全上のご注意 .....6 取り扱い上のご注意.....10
<b>撮影前の準備と操作の基本</b>	1. 操作の基本.....20 2. 電池のセットと容量の確認 .....25 3. レンズの取り付け方と 取り外し方 .....27
<b>すぐ撮影するには 〈P〉プログラムAE撮影</b>	〈P〉プログラムAE撮影.....34 プログラムシフトについて .....35
<b>オートフォーカス(AF)と ピント合わせ</b>	1. AFモードの選択 .....38 AFモードとは .....39 2. エリアAFフレームと AFフレーム .....41 3. AFフレームの選択 .....42 ●自動選択 .....42 ●任意選択 .....42
<b>撮影目的に合わせた 測光方式の選択</b>	1. 測光方式の選択方法 .....58 2. 測光方式の種類 .....59 評価測光 (☒) .....59
<b>撮影目的に合わせた 自在な応用撮影</b>	1. シャッター速度を決めて撮る/ Tv (シャッター優先AE撮影) .....64 2. 絞り数値を決めて撮る/ Av (絞り優先AE撮影) .....67 3. ピントの合う範囲を決めて撮る/ DEP (深度優先AE撮影) .....70 選択したAFフレームによる方法 .....70 視線入力AFによる方法 .....72
<b>ストロボ撮影</b>	1. EOS専用スピードライト550EXを 利用した撮影 .....94
<b>カスタム機能</b>	1. カスタム機能の設定と解除 .....106
<b>資料</b>	1. 故障かなとお考えの前に.....130 2. 露出警告表示一覧 .....132 3. プログラム線図 .....133 4. シャッター速度と絞り数値の表示 .....134

各部の名称 ……………13 本使用説明書の操作説明上のお断り ……17	ストラップ (吊りひも) の取り付け方 ……18
4. フィルムの入れ方 ……………28 フィルム感度の設定 ……………30	5. フィルムの取り出し方 ……………32 フィルムを途中で取り出す (Q) ……32
視度補正レンズについて ……………36	
●視線入力による任意選択 ……………44 視線入力AFとは ……………45 視線入力特性を合わせる ……………46	6. 画面の端の被写体に ピントを合わせる ……………53 ●使用レンズの明るさとEOS-3の AF測距について ……………54
4. 視線入力による ONE SHOT AF撮影 ……………51	7. オートフォーカスが苦手な被写体 ……55
5. 視線入力による AI SERVO AF撮影 ……………52	8. 手動ピント合わせ (マニュアルフォーカス) ……………56
部分測光 (☒) ……………59 スポット測光 (☑) ……………59 中央部重点平均測光 (☐) ……………60	AFフレーム連動スポット測光 ……60 マルチスポット測光 ……………61
4. 自分で露出を決めて撮る/ M (マニュアル露出撮影) ……………75	9. 多重露出撮影 [ ] ……………84
5. 自分の好みに露出を補正する ……77	10. バルブ撮影 [buLb] ……………86
6. 露出を自動的に変えて撮る/ AEB撮影 ……………79 AEB撮影の解除 ……………80	11. 一枚撮り・連続撮影の切り換え ……87
7. 露出を固定して撮る/ AEロック撮影 ……………81	12. セルフタイマー撮影 ……………89 アイピースカバーの使い方 ……90
8. フィルム感度の手動設定 ……………83	13. ミラーアップ撮影 ……………91
2. その他のEOS専用スピードライト を利用した撮影 ……………102	14. 被写界深度の確認 ……………92
2. カスタム機能で変更できる内容 ……108	15. 表示パネルの照明 ……………92
5. フォーカシングスクリーンを 交換したとき ……………135	3. 汎用ストロボを利用した撮影 ……103
6. 主なアクセサリ ……………137	3. カスタム機能逆引き一覧 ……126
	主な性能の一覧 ……………142 カスタム機能シールマーク一覧 ……147

# 安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

- ⚠警告：** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
- ⚠注意：** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## その他の絵表示の例

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止

- ⊙ 記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。
- ⊙ の中に具体的な禁止内容が描かれています。

 **警告****電池**

- ⊘ このカメラで指定されていない電池は、使用しないでください。電池（乾電池）の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
- ⊘ 電池を火の中に入れてたり、分解、加熱、ショートは絶対しないでください。また、水の中に入れてください。電池の破裂、液漏れなどによる、火災、けがの原因となります。
- ⊘ リチウム電池など充電できない電池を無理に充電しないでください。電池の破裂、液漏れなどによる、火災、けがの原因となります。電池を取り外した場合は、お子様の手の届かないところへ置いてください。万一、飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が冒される恐れがありますので、ただちに医師に相談してください。
-  万一、カメラ（電池）が熱くなる、煙がでる、焦げ臭いなどの異常が起こった場合、そのまま使用すると火災、火傷の原因になります。
-  火傷には、十分注意しながら速やかに電池を取り出し、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
-  電池を廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。
- ⊘ 可燃性ガスの雰囲気の中で使用しないでください。爆発、火災の原因となることがあります。

## ⚠警告

### その他取り扱い

- ⊘ 自分でカメラを分解、改造しないでください。内部の点検、調整、修理は、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。
- ⊘ レンズまたは、レンズをつけたカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。
- ⚠ カメラは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
- ⊘ 自動車などの運転中に、カメラを絶対に操作しないでください。交通事故の原因となります。

**⚠注意**

- ⊘ カメラを高温状態の車の中に放置したり、熱いものの近くに置いたりしないでください。カメラ自体が高温になり、触ると火傷の原因となることがあります。
- ⊘ カメラを低温状態中に放置しないでください。カメラ自体が低温になり、触るとけがの原因となることがあります。
- ⊘ レンズまたは、レンズをつけた一眼レフカメラをレンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
- ⚠ カメラをストラップで下げているときは、他の物に引っ掛かったりしないように注意してください。けがをする原因となることがあります。
- ⊘ カメラを三脚に取り付けたまま移動しないでください。つけたまま移動するとつまずいたり、ぶついたりしてけがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- ⚠ 万一、カメラごと水中に落したり、内部に水が入った場合は、電池を抜いて、速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

# 取り扱い上のご注意

## 手入れと保管について

- (1) カメラは精密機械です。落としたりショックを与えたりしないでください。
- (2) このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一、使用中に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- (3) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますのでこのような中にカメラを放置しないでください。
- (4) カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- (5) レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーン、フィルム室内などにゴミがついているときは、市販のプロアーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- (6) シャッター幕は非常に薄い幕でできています。お手入れには必ずブロワーを使用し、あまり強く吹かないでください。強く吹くとシャッター幕の変形や破損の恐れがあります。またフィルムを出し入れする際にもシャッター幕に触れないようご注意ください。
- (7) カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- (8) カメラを長期間使用しないときは電池室から電池を抜き取り、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- (9) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中

なども避けてください。

- (10) 長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- (11) レンズを外したときは、電子接点やレンズ面を傷付けないように、取り付け面を上にして置いてください。
- (12) メインスイッチを $\blacksquare$ にしてもカメラは表示パネルのために微弱な電流を必要としますが、撮影本数には影響ありません。

## 表示パネルについて

カメラの表示パネルやファインダー内表示は液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用でも表示が薄くなり読みにくくなることがあります。その場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください（有料）。なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

## 表示パネルのbc表示点滅について

電池の容量が極端に低下したとき、カメラが誤動作を起こしたとき、または故障したときは表示パネルにbcが点滅することがあります。以下の操作を行ってください。

- (1) バッテリーチェックボタンで電池の容量を確認します。もし電池の容量が低下していれば電池を交換してください。
- (2) 電池の容量が正常なら、一度電池をカメラから取り出し、再度入れ直してください。
- (3) 一度シャッターを切ります。

以上の操作を行ってbcの点滅が消えれば、正常に撮影を続けることができます。しかしこの操作を繰り返してもbcの点滅が消えないときはカメラの故障です。最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。

### 電池について

カメラは電池を正しく入れて、はじめて作動します。次のようなときは、まず電池の容量を確認してください。(→26)

- (1) 電池を交換したとき
  - (2) 長期間カメラを使用しなかったとき
  - (3) シャッターが切れなくなったとき
  - (4) 寒冷地で撮影するとき
  - (5) その他、大切な写真を撮るとき
- 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
  - 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
  - リチウム電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

### 電池容量の低下とカメラの作動について

表示パネルの**bC**が点滅または無表示になっても、シャッターが切れれば適正な写真が撮影されます。ただし、電池の容量が低下してくると、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあり、表示パネルに**bC**が点滅します。新品の電池に交換すると、フィルムの巻き上げは継続され、フィルムの巻き戻しは〈**Q**〉ボタンを押せば継続されます。



#### 使用後はリサイクルへ

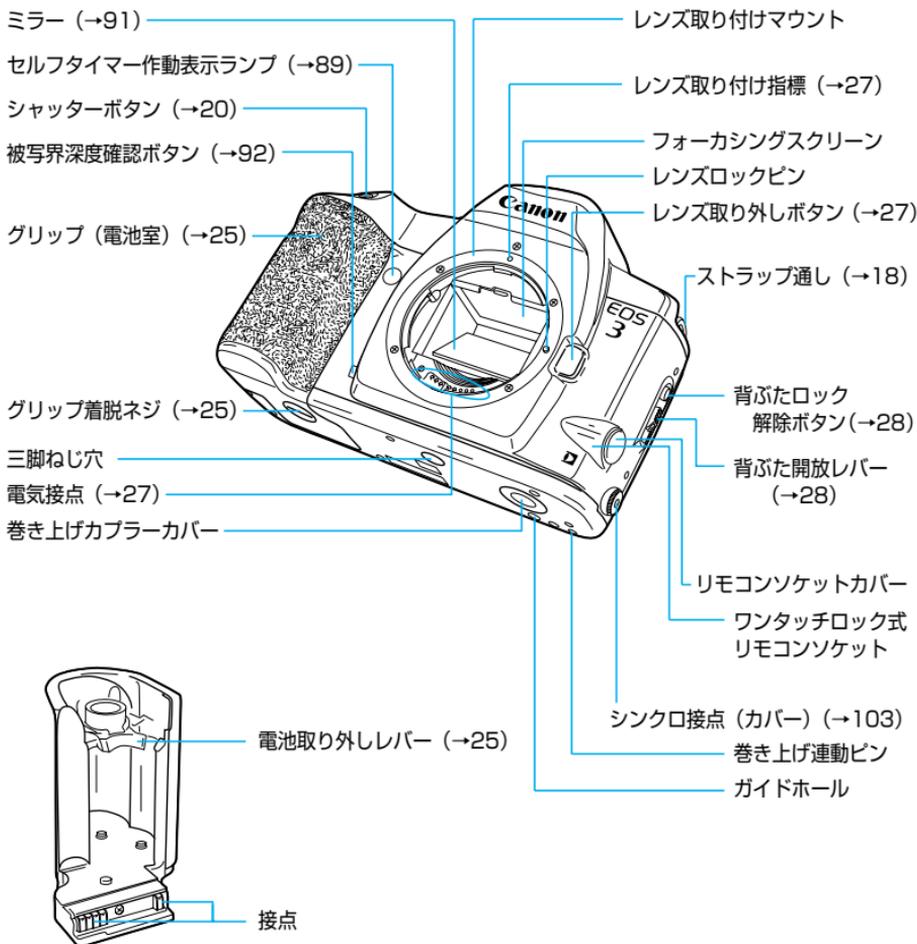
ニッケル水素電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。

Ni-MH

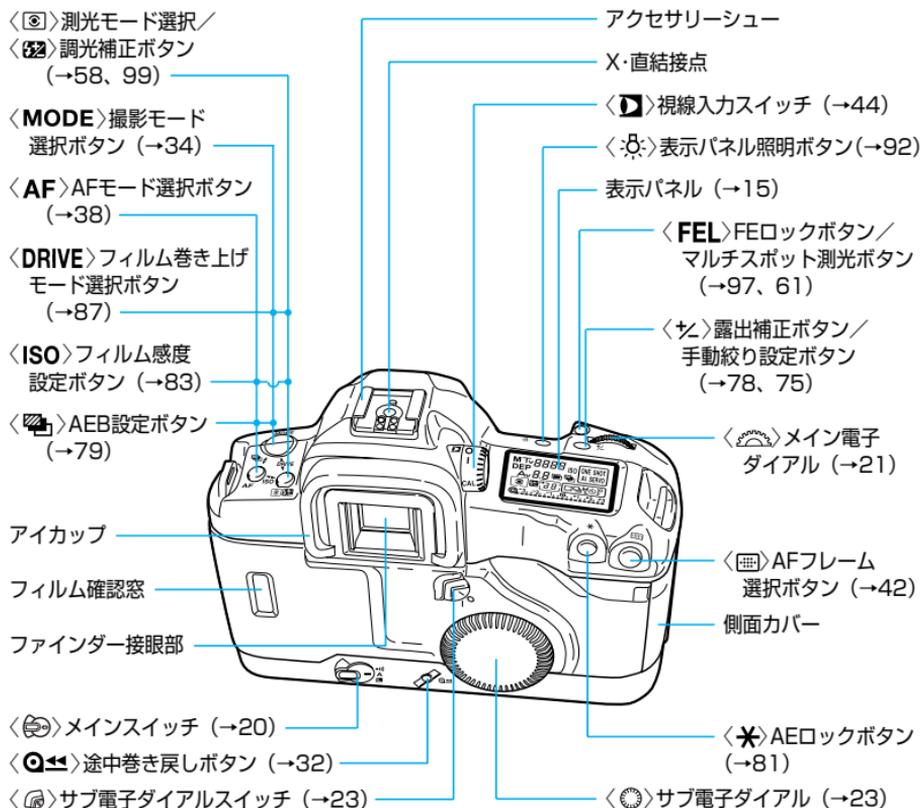
リサイクルについては、ご購入販売店にお問い合わせください。

# 各部の名称

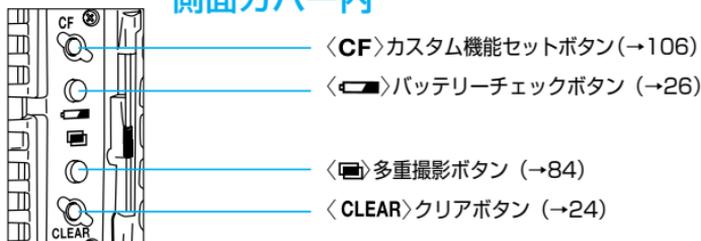
- (→■)の数字は参照ページを示しています。
- 本文では各ボタン操作をく　　内表示マークで説明しています。



## 各部の名称



## 側面カバー内



## 表示パネル

- 表示パネルの表示枠の色は、関連するボタンなどの色に合わせてあります。

## 撮影モード表示

- P : プログラムAE
- M : マニュアル露出
- Tv : シャッター優先AE
- DEP : 深度優先AE
- Av : 絞り優先AE

絞り数値表示 (0.0~9.1)  
(dEP) 1, 2AEBステップ量表示  
(0.0~3.0)AFフレーム選択モード  
(AF)カスタム機能セット表示  
(0/1/2/3)キャリブレーションNo. 表示  
(-1~-3)

## 測光モード表示

- 評価測光
- 部分測光
- スポット測光
- 中央部重点平均測光

## フィルム在否表示

## フィルム巻き戻し終了表示

## ストロボ調光補正表示

## フィルムカウンター残数表示

## フィルムカウンター表示 (1~36)

## バルブ露出時間表示 (1~30)

## 多重露出予約回数表示 (1~9)

## 多重露出回数表示 (9~1)

## セルフタイマー時間表示 (10~1)

## シャッター速度表示 (8000~30'')

## バルブ表示 (bulb)

## 深度優先AE作動表示 (dEP)

AFフレーム選択モード表示  
([L], SEL, EYE, -o-)

## フィルム感度表示 (6~6400)

## カスタム機能表示 (F-0~17)

## キャリブレーション表示 (CAL, End)

## バッテリーチェック表示 (bc)

## FEロック表示 (FEL)

## ISO表示

AFモード表示  
ONE SHOT AF  
AI SERVO AF

## AEB表示

フィルム巻き上げ  
モード表示  
一枚撮り (□)  
連続撮影 (M)  
低速連続撮影 (ML)  
高速連続撮影 (MH)  
セルフタイマー表示  
(10秒 10, 2秒 2)

## 露出補正目盛

## フィルム巻き上げ/巻き戻し作動表示

## フィルム巻き上げ不良警告

## フィルム巻き上げ完了表示

## バッテリーチェックマーク

## 露出補正レベル表示

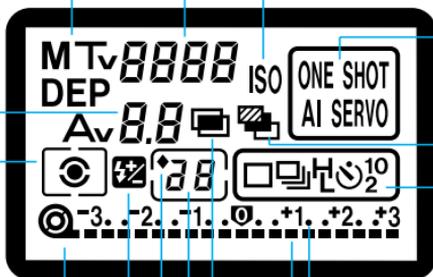
## バルブ30秒単位表示

## AEBレベルセット表示

## 調光補正レベル表示

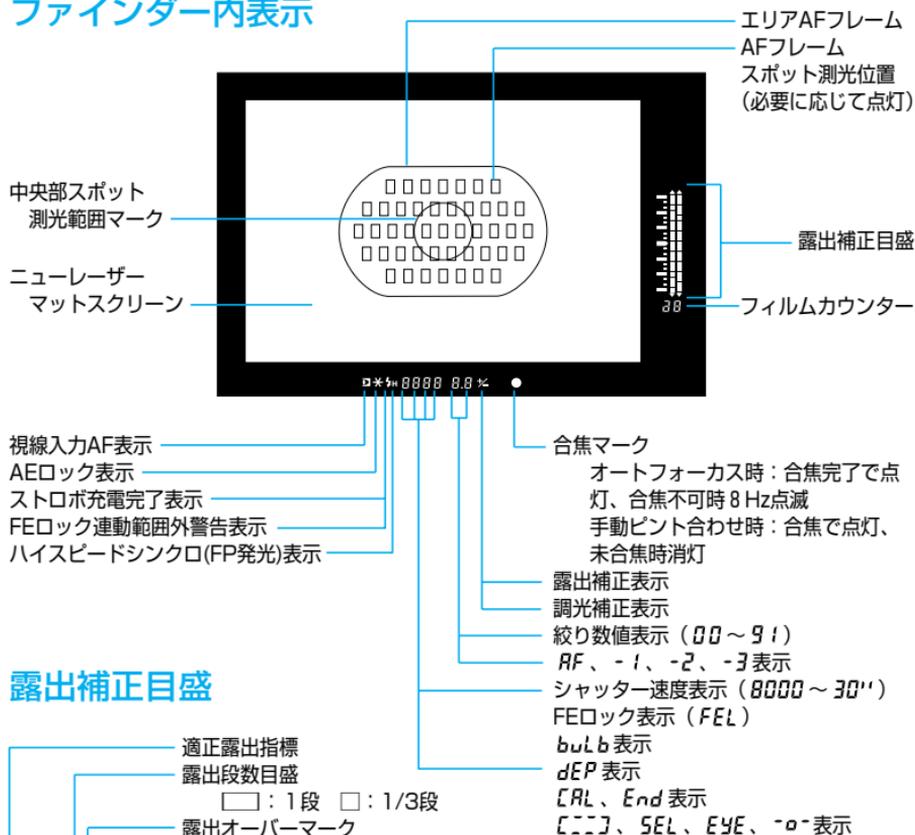
## カスタム機能設定表示

## 多重露出表示

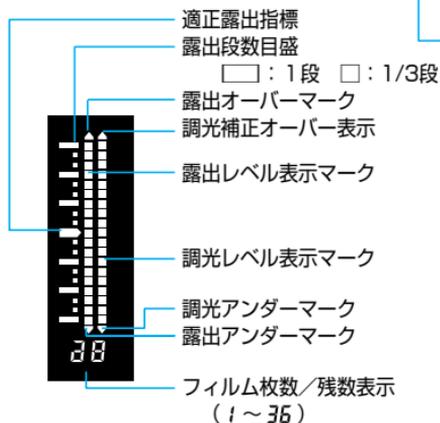


## 各部の名称

### ファインダー内表示



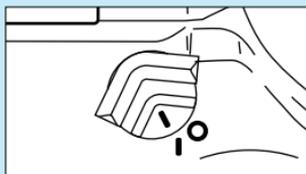
### 露出補正目盛



## 本使用説明書の操作説明上のお断り



- 〈〉スイッチが〈A〉になっていることを前提に、それぞれの操作方法を説明しています。各操作をする前に、先ず最初に 〈〉スイッチを〈A〉か〈M〉にしてください。



- 〈〉ダイヤル操作は、〈〉スイッチが〈I〉になっていることを前提に操作方法を説明しています。操作する前に〈I〉になっていることを確認してください。



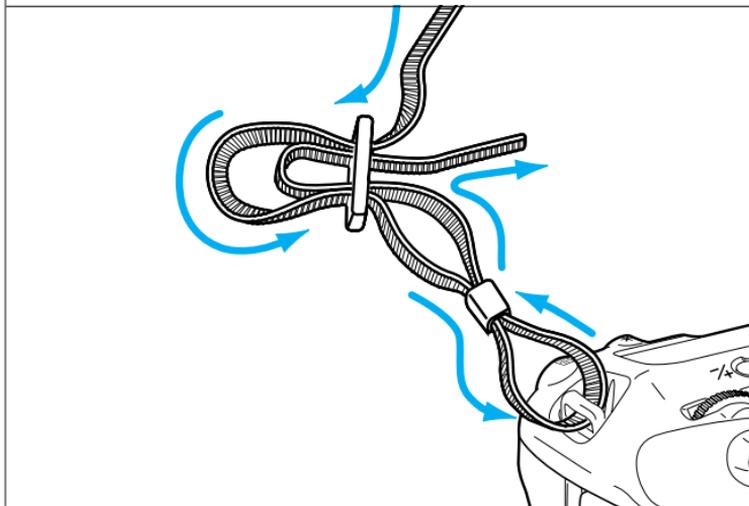
- 本文中で左記のマークをつけて、それぞれの機能に関するカスタム機能の簡単なガイドを行っています。  
詳細については105ページの「カスタム機能」を参照してください。

- 本文中の〈〉はメイン電子ダイヤル、〈〉はサブ電子ダイヤル、〈〉はメインスイッチ、〈〉はサブ電子ダイヤルスイッチのことです。
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明にはボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。各ボタンの正しい名称は13ページの「各部の名称」を参照してください。また、(→■)の数値は参照ページを示しています。
- この使用説明書ではEF50mm F1.4USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カスタム機能は標準に設定されている状態で説明しています。

- (⌚6) はボタンから指を離しても、その機能が約6秒間保持されることを示します (6秒タイマー機能)。
- (⌚16) はボタンから指を離しても、その機能が約16秒間保持されることを示します (16秒タイマー機能)。

### ストラップ (吊りひも) の取り付け方

ストラップの先をストラップ通しの下から通し、さらにストラップについている止め具の内側を通します。ストラップを引っばっても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。



# 撮影前の準備と操作の基本

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、EOS-3の操作の基本について説明しています。初めての方は、ここから順番にお読みください。

EOSカメラ取り扱いの基礎知識をお持ちで、直ぐに撮影を始めたい方は、33ページの「すぐ撮影するには／〈P〉プログラムAE撮影」を参照してください。

# 1. 操作の基本

## メインスイッチ

このカメラは〈〉スイッチを入れて初めて作動します。メインスイッチには次の3つの設定位置があります。



〈**L**〉：ロック位置。カメラは作動しません。カメラを使用しないときは、メインスイッチをこの位置にします。



〈**A**〉：カメラを作動させるときはこの位置にします。AはAdvance（進む）の略です。



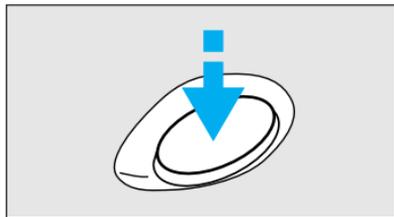
〈〉：〈**A**〉と同じですが、次の状態では電子音がなります。

- ONE SHOT AFでピントが合ったとき。
- 手動ピント合わせでピントが合ったとき。
- 視線特性の登録時（成功したときは短く、失敗したときは断続して鳴ります）

## シャッターボタン

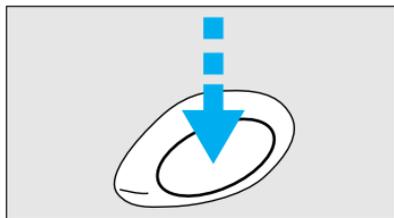
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

シャッターボタンを押す操作は、カメラ全体をにぎるような感じで、静かにゆっくりと行ってください。「半押し」、「全押し」では、それぞれ次のような働きをします。初心者の方は、フィルムを入れる前に練習してください。



### (1)半押し

オートフォーカス(Auto Focus/AF、自動ピント合わせ)によるピント合わせと自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。露出データ(シャッター速度と絞り数値の組み合わせ)は表示パネルとファインダー内に表示されます。表示は(♻6)が働きます。



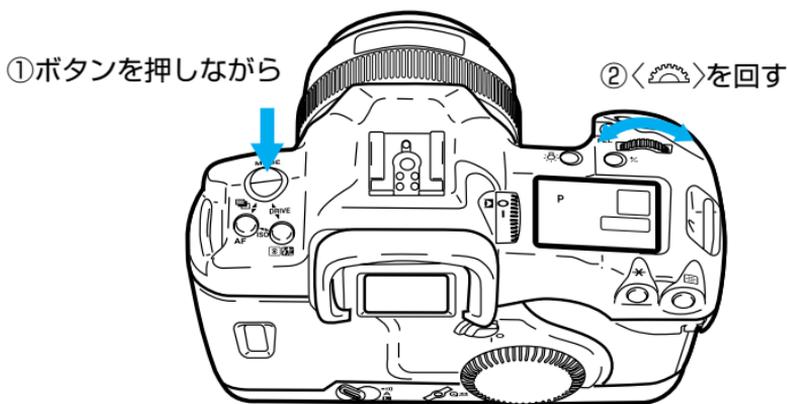
### (2)全押し

シャッターが切れて撮影されます。撮影した後は、自動的にフィルムが巻き上げられます。

## 電子ダイヤル操作による機能の選択と設定

〈〉ダイヤルによる基本操作には、次の3種があります。

- (1) ボタンを押したまま、表示パネルを見ながら〈〉ダイヤルを回す。  
ボタンから指を離すと撮影準備状態に戻ります。



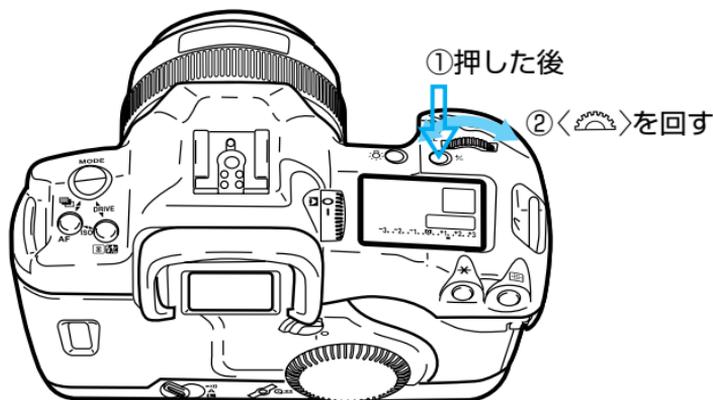
## 操作の基本

### (2) ボタンを押した後、ダイヤルを回す。

ボタンを押すとその機能選択状態がタイマーで保持されます。その間に表示パネルを見ながらダイヤルを回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると撮影準備状態に戻ります。本文の説明でタイマー保持されるボタン操作には次のマークがつけてあります。

()6) : ボタンから指を離しても、その機能が約6秒間保持されます。

()16) : ボタンから指を離しても、その機能が約16秒間保持されます。



### (3) ダイヤルのみを回す。

表示パネルを見ながら、シャッター速度や絞り数値などの設定を行います。

〈〉ダイヤルによる基本操作には、次の3種があります。

- (1) ボタンを押しながら〈〉ダイヤルを回す。
- (2) ボタンを押した後〈〉ダイヤルを回す。
- (3) 〈〉ダイヤルのみを回す。

設定内容は表示パネルで確認します。

タイマー機能や撮影準備状態への復帰は〈〉ダイヤル操作に準じます。

〈〉ダイヤルは、次の設定に使用します。

- (1) リアルタイム露出補正
- (2) マニュアル絞り数値設定
- (3) ストロボ調光補正
- (4) AFフレームの縦方向の選択

〈〉ダイヤルは、〈〉スイッチが〈I〉になっているときのみ働きます。



○ : 〈〉ダイヤルを使わないときはこの位置にします。

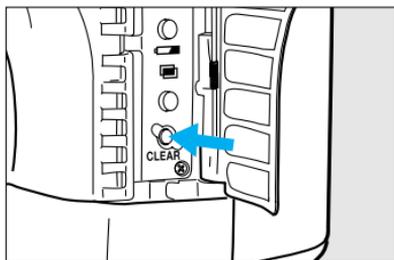


I : 〈〉を使うときはこの位置にします。

## カメラを初期状態に自動設定するには

EOS-3では、撮影モードや測光モードなどの各機能を自由に選択することができます。また、カスタム機能(→105)を活用すると、操作ボタンの機能やカメラの仕様を自分の好みに合わせて変更することができます。組み合わせや変更した内容を初期状態に戻すには次のようにします。

## 操作の基本



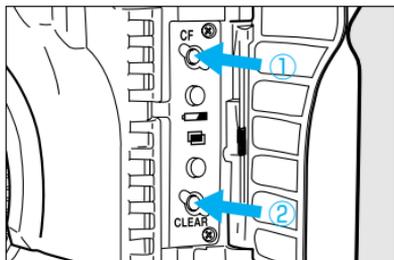
カメラの各機能設定を初期状態にするには。

- 1 側面カバー内にある〈CLEAR〉ボタンを押します。カメラの状態は次の表のようになります。

撮影モード	P
AFモード	ONE SHOT AF
測光方式	評価測光
フィルム巻き上げモード	1枚撮り
AFフレームの選択	自動選択
多重露出	解除
露出補正	0 (ゼロ)
調光補正	0 (ゼロ)
AEロック	解除
FEロック	解除
AEB撮影	解除
カスタム機能	設定状態のまま



この操作をすると、プログラムAE 〈P〉で自動撮影を行う準備が自動的に完了します。(→33)

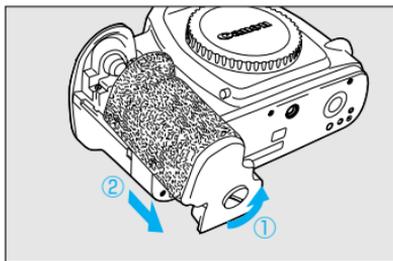


CF-0 (→107) 以外の全てのカスタム機能設定を初期状態にするには。

- 2 側面カバー内の〈CF〉ボタンを押してから、〈CLEAR〉ボタンを押します。

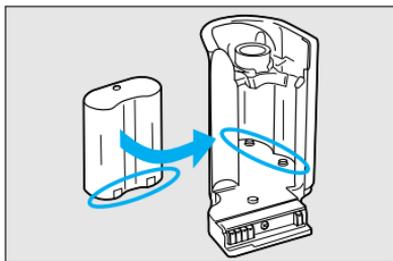
## 2. 電池のセットと容量の確認

グリップが電池室になっています。グリップを本体から外して電池を入れます。電池はリチウム電池 (2CR5) 1個を使用します。



### 電池のセット

- 1 グリップ着脱ねじを硬貨などを利用して矢印の方向に回してゆるめます。
- 2 グリップを下にずらして本体から外します。
- 3 電池室の奥にある接点に電池の接点を合わせるようにして電池を入れます。

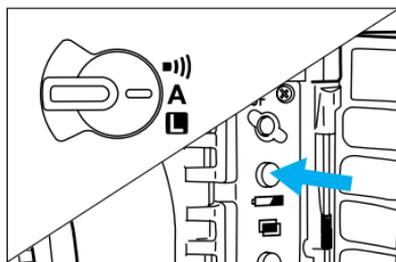


- 4 電池を図のように電池室に入れてから、矢印方向に押し込みます。
  - 電池を取り出すときは、電池取り出しレバーを操作して取り出します。
- 5 グリップを本体に取り付け、グリップ着脱ねじを回して完全に止めます。



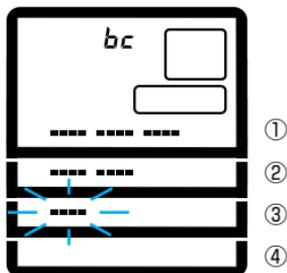
地域によっては電池の入手が困難なことがあります。旅行に出かけるときや、写真を撮たくさん撮るときは、予備の電池をご用意ください。

## 電池のセットと容量の確認



### 電池容量の確認

- 1 <⊖>スイッチを<A>にします。
- 2 側面カバーを開けて、<▶>ボタンを押します。
- 3 表示パネルにバッテリーチェックマーク (■■■) が表示されます。表示の意味は次のとおりです。  
(図①): 電池の容量は十分です。  
(図②): 新しい電池を用意してください。  
(図③): (点滅) まもなく電池切れになります。  
(図④): (表示なし) 新しい電池に交換してください。  
bc (点滅): 11ページを参照してください。



- <⊖>スイッチを<A>にしても、表示パネルに何も表示されない場合は電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れ直してから電池容量を確認しなおしてください。
- ③④の状態でもシャッターが切れば適正な露出で撮影できます。
- カメラを使用しないときはメインスイッチを<⏻>にしてください。カバンの中などで物がシャッターボタンに当たってシャッターボタンが押され続け電池が消耗してしまった、ということが無くなります。
- 撮影時のカメラの使い方により、撮影本数は大きく異なります。

## リチウム電池 (2CR5) の寿命 (撮影可能本数)

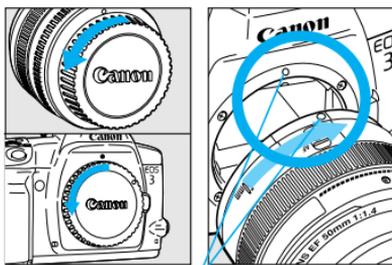
温度	撮影本数
常温 (+20℃)	75 (50)
低温 (-20℃)	18 (12)

- 撮影本数は、新品電池、EF50mm F1.4USM、24枚撮りフィルムを使用、当社試験条件による本数です。( ) 内は36枚撮りフィルム使用時の本数です。
- パワードライブブースターPB-E2、E1、バッテリーバックBP-E1 使用時には、それぞれの使用説明書を参照してください。

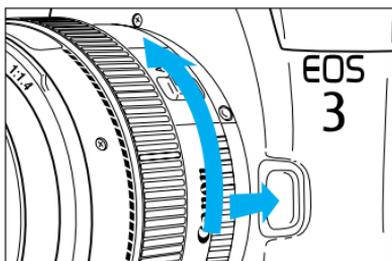
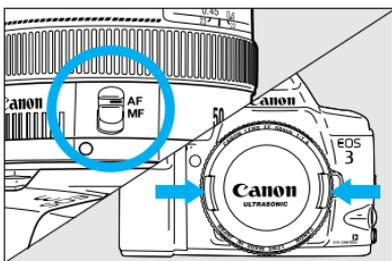


- 実際に撮影せずに、シャッターボタンを半押ししてAFのみを行っても電池は消耗します。
- 実際の撮影条件との違いにより、表記本数よりも少なくなる場合があります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたりAFのみ行って撮影しないという操作を頻繁に行うと、撮影本数が半分以下になることがあります。

# 3. レンズの取り付け方と取り外し方



レンズ取り付け指標



## レンズの取り付け方

- 1 レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。
- 2 レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。
- 3 レンズのフォーカスモードスイッチをAFに合わせます。
  - MF (またはM) になっているとAFができません。
- 4 レンズキャップを外します。

## レンズの取り外し方

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回します。

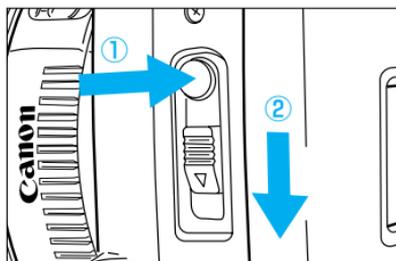


レンズを外したときは電気接点やレンズ面を傷付けないよう、取り付け面を上にして置いてください。

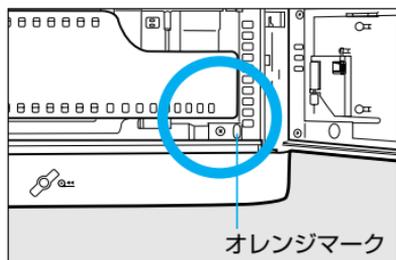
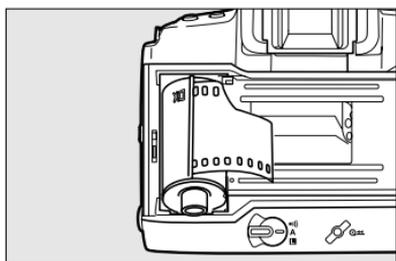


AFとは英語のAuto Focus (オートフォーカス) の略で自動焦点のことです。

# 4. フィルムの入れ方

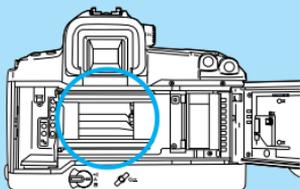


- 1 <img alt="Back cover lock icon" data-bbox="515 108 555 135"/>スイッチを<math>\mathbf{A}</math>にします。
- 2 背ぶたロック解除ボタンを親指の腹側で深く押し、そのまま背ぶた開放レバーを矢印の方向に押し下げて背ぶたを開きます。
  - 指1本での操作が難しい方は、背ぶたロック解除ボタンと背ぶた開放レバーを別々の指で操作します。
- 3 フィルム容器（パトローネ）を図のように少し斜めにして入れます。

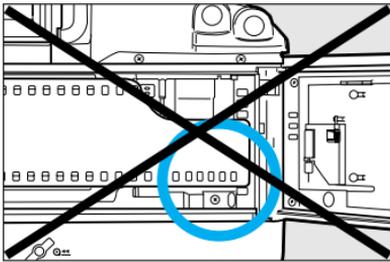


正しいセット

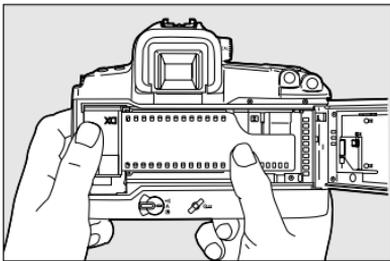
- 4 フィルムの先端をカメラのオレンジマークに合わせます。
  - フィルムがたるまないよう、パトローネを押さえてください。



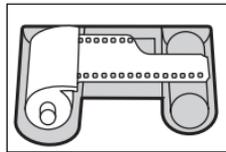
シャッター幕は非常に高い精度で加工されています。絶対に手を触れないでください。また、フィルムを入れる際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないよう十分ご注意ください。



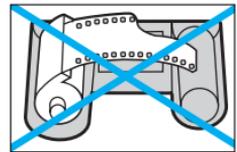
誤セット



- 5 フィルムの先端がオレンジマークに合っていることを確認して背ぶたを「パチン」というまで閉じます。

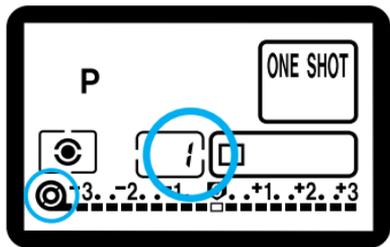


正しいセット



誤セット

- フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネ内に少し巻き戻します。



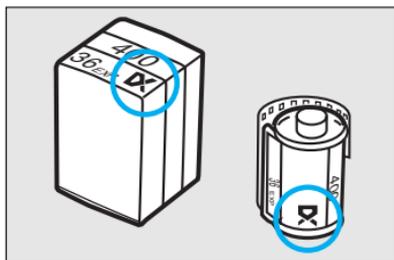
- 6 背ぶたを閉じるとカメラは自動的にフィルムを巻き上げます。表示パネルにフィルム在否表示が点灯します。さらにフィルムカウンター表示部とファインダー内の露出レベル表示マーク下にフィルムの1コマ目を示す「1」が表示されます。

- フィルムが正しくセットされないとフィルム巻き上げ／巻き戻し作動表示が点滅し、シャッターが切れません。フィルムを正しく入れ直してください。

## フィルムの入れ方

- CF** フィルムカウンター表示の順算表示を逆算に切り換えることができます。逆算にすると表示パネルのフィルムカウンター左上に◆が表示されます。(CF-8→114)

-  高温度下で撮影する場合、フィルムはカメラに入れる直前に梱包から取り出してください。



## フィルム感度の設定

フィルム感度はカメラがフィルムのDXコードを読み取ることにより自動設定されます。自動設定されるフィルム感度の範囲はISO 25~5000です。



カメラに設定されているフィルムの感度を確認するには、〈AF〉ボタンと〈DISP〉ボタンを同時に押します。表示パネルにISOとそのときに設定されているフィルムの感度が表示されます。

DXコードがついていないフィルムを使用すると表示パネルは以下ようになります。

- (1) ISOとセットされていたフィルム感度を示す数字が点滅します。「8. フィルム感度の手動設定」(→83)に従ってフィルム感度を設定してください。
- (2) カスタム機能CF-8でフィルムカウンター表示を逆算に設定してあると、カウンター表示に◆の点灯と「35」が点滅し、撮影するたびに点滅しながら逆算表示します。

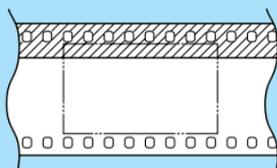


フィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定する場合は、83ページの「8. フィルム感度の手動設定」をお読みください。

**CF** DXコードによるフィルム感度設定を禁止することができます。(CF-3→110)



赤外センサーでフィルム送りの検出を行っているため、赤外フィルムを使用すると撮影画面の下部にカブリ（感光）が生じます。

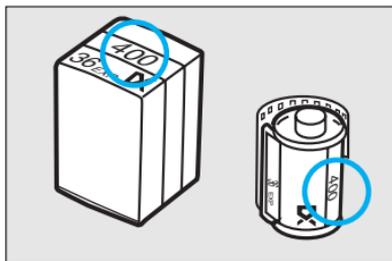


### <写真の基本用語ミニ解説 ①>

#### ●フィルム感度 (ISO値)

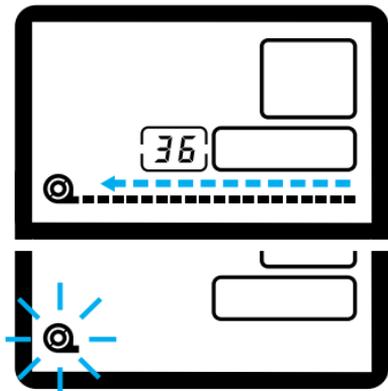
フィルム感度は、フィルムがどのくらいの弱い光にまで感応するかをISO (International Organization for Standardization/国際標準化機構) で定めた数値で表しています。このカメラの表示パネルに表示されるフィルム感度は、6～6400となっています。

ISO値が大きくなるほど光に対する感度が高くなります。フィルムの感度が高いほど撮影に必要な光の量は少なくなり、暗いところでも写真が写るようになります。

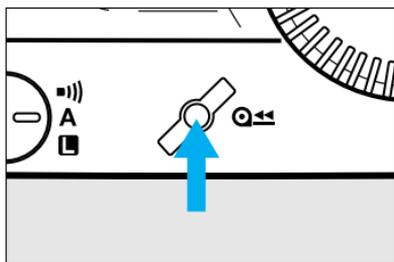


# 5. フィルムの取り出し方

フィルムの最後のコマを撮影すると自動的にフィルムの巻き戻しが始まります。



- 1 巻き戻しが始めると、表示パネルにフィルム巻き戻し作動表示が右から左に動いて巻き戻し中であることを示します。同時にフィルムカウンター表示部の数字も一つずつ減っていきます。
- 2 巻き戻しが終了すると自動的に巻き戻しは停止します。表示パネルの<@>が点滅していることを確認してからフィルムを取り出します。



## フィルムを途中で取り出す (<@>)

撮影の途中でフィルムを巻き戻すときは、<@>ボタンを押します。直ちに巻き戻しが始まります。



フィルム巻き戻し中に、<@>ボタンを押すと、高速巻き戻しと低速（静粛）巻き戻しの切り換えを行うことができます。

CF

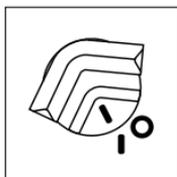
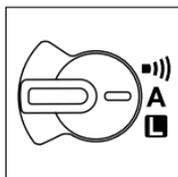
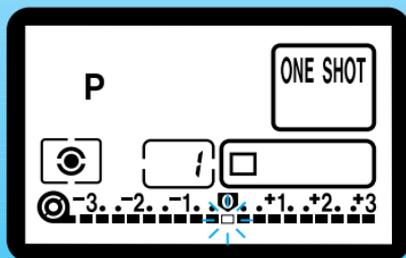
フィルムの巻き戻しの速度や方法を変更することができます。  
(CF-1→108)

CF

巻き戻しが終わるとフィルムの先端をパトローネに巻き込みますが、これを巻き込まないようにすることができます。(CF-2→110)

# すぐ撮影するには 〈P〉プログラムAE撮影

プログラムAEを利用して簡単な撮影をしてみましょう。プログラムAEは被写体の明るさに応じて、撮影時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（露出値）をカメラが自動的に設定します。どなたにも気軽に撮影を楽しんでいただくことができます。ファインダーの広い範囲をカバーしているエリアAFフレームを利用して、いろいろな被写体を自由な構図で撮ってみましょう。



あらかじめ〈A〉スイッチを〈A〉に設定してください。また、必要に応じ、〈I〉スイッチを〈I〉に設定してください。

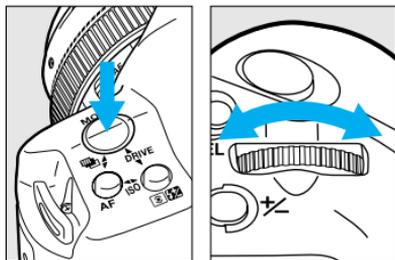


カメラの初期設定を行うと、自動的にプログラムAE撮影の準備が完了します。(→23)

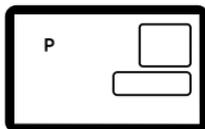


AEとは英語のAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

## すぐ撮影するには〈P〉プログラムAE撮影



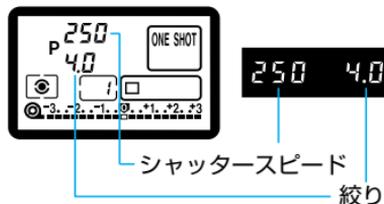
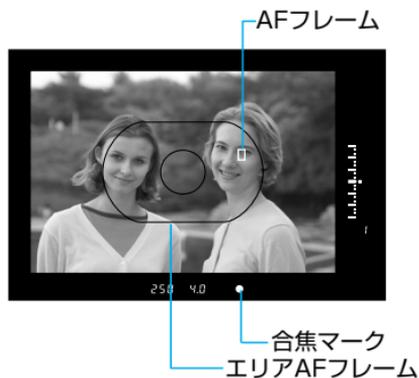
- 1 〈MODE〉ボタンを押しながら 〈〉ダイヤルを回し〈P〉を表示します。



- 2 〈P〉表示を確認したら〈MODE〉ボタンから指を離します。

- 3 ファインダーをのぞいてエリアAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが一瞬光ります。同時にファインダー内に緑色の合焦マーク (●) がつきます。
- 合焦マーク (●) が点滅するときは、シャッターが切れません。56ページ「8. 手動ピント合わせ (マニュアルフォーカス)」を参照してください。
- 表示パネルとファインダー内に露出値が表示されます。
- オートフォーカス作動中は、レンズの可動する部分に触れないでください。



- 4 露出値が点滅していないことを確認して撮影します。



ピントが合うとAFフレームが一瞬光ります。AFフレームが任意選択 (→ 42) されている場合、(●6) タイマーが作動している間、淡く点灯します。

### [露出警告]



露出値が点滅するときは露出が不適當です。撮影できますが明るすぎたり暗すぎたりした写真になります。詳しくは132ページ「露出警告表示一覧」を参照してください。

## プログラムシフトについて

プログラムAE〈P〉では露出を変えずに、シャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を変更することができます。これをプログラムシフトといいます。シャッターボタンを半押しした後〈〉ダイヤルを回して、希望するシャッター速度または絞り数値に設定します。



プログラムシフトは撮影すると解除されます。

## すぐ撮影するには〈P〉プログラムAE撮影



鮮明な写真を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

- カメラのグリップ部を右手で包むようにしっかりと握り、肘を軽く体につけます。
- 左手でレンズ部を支えるように持ちます。
- カメラを額につけるようにして、ファインダーを覗きます。
- 両足は揃えずに片足を軽く踏み出して体を安定させます。



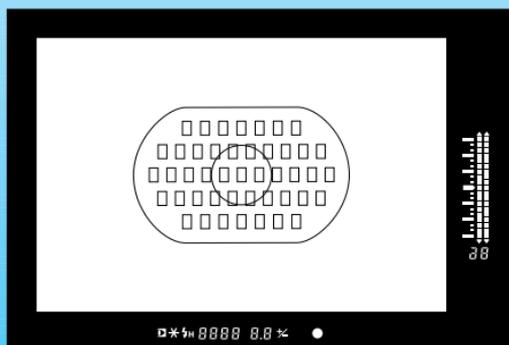
## 視度補正レンズについて

ファインダー接眼部に視度補正レンズを取り付けると、近視や遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度は-1ジオプターですが交換用視度補正レンズとして10種類が用意されています。実際にカメラに取り付けてファインダーをのぞいた上でお買い求めください。(→140)

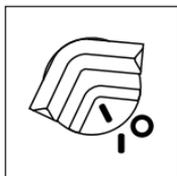
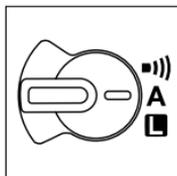
- EOS-3で利用できる視度補正レンズはEdシリーズです。

# オートフォーカス(AF)とピント合わせ

エリアAFフレーム内には、45のAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを選択することで、構図優先のAF撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図に合わせてオートフォーカスの作動特性を選択することができます。



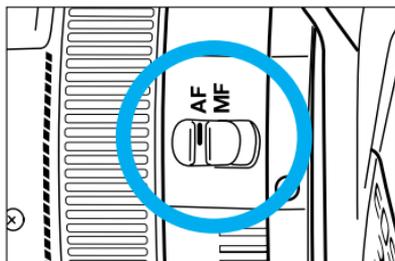
\*表示は全て点灯することはありません。



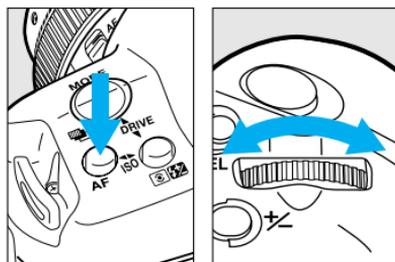
あらかじめ〈〉スイッチを〈**A**〉に設定してください。また、必要に応じ、〈〉スイッチを〈**I**〉に設定してください。

# 1. AFモードの選択

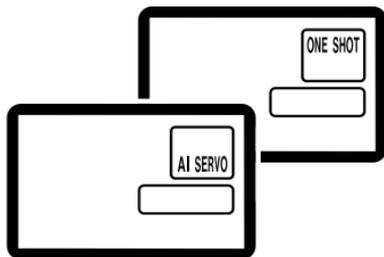
## AFモードの選択



- 1 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにセットします。



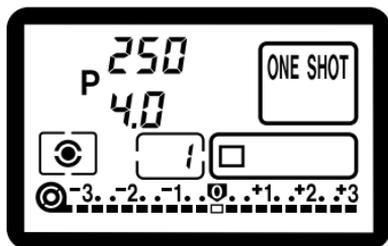
- 2 カメラの〈AF〉ボタンを押しながら、ダイヤルを回し、表示パネルに希望するAFモードを表示します。



- 3 〈AF〉ボタンから指を離します。

## AFモードとは

AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。止まっている被写体の撮影に適しているONE SHOT AF（ワンショットオートフォーカス）と、動いている被写体の撮影に適しているAI SERVO AF（エーアイサーボオートフォーカス）の2種類があります。被写体の状況にあわせて選択します。



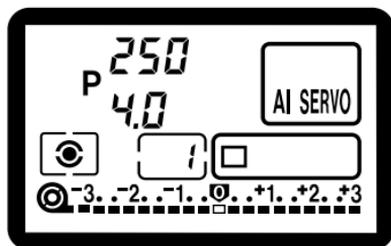
## 止まっている被写体を撮るときはONE SHOT AF

シャッターボタンを半押しするとAF機構が作動し、1回だけピントを合わせます。

- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬光り、同時にファインダー内に合焦マーク（●）が点灯します。
- <AF-ON>スイッチを<AF-ON>にしておくと同様に電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- 評価測光では合焦と同時に露出値が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと露出値が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影（→53）ができます。



ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク（●）が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、56ページの「8. 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）」を参照してください。



### 動いている被写体を撮るときは AI SERVO AF

シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます。撮影距離がたえず変わる（移動し続けている）被写体の撮影に適しています。動体予測機能\*でカメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にもピントが合います。露出はシャッターが切れる直前に決まります。



- ピントが合ってもファインダー内の合焦マークは点灯せず、電子音も鳴りません。
- ファインダー内の合焦マークが点滅するときはピントが合っていません。
- フォーカスロック撮影はできません。（カスタム機能CF-4-2設定時を除く）

### \* 動体予測機能について

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる場合、または遠ざかっていく場合に、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

任意のAFフレームを選択しているときは、赤く光ったそのAFフレームで動体予測を行います。

AFフレーム自動選択のときは、始めに中央で被写体をとらえます。AF中に被写体が中央から外れても、エリアAFフレーム内で被写体を確実にとらえていれば動体予測を続けます。AFフレームは光りません。



AI SERVO AF作動中に、〈\*〉ボタンを押すと、押し続けている間ピントを一時的に固定することができます。（CF-4→110）

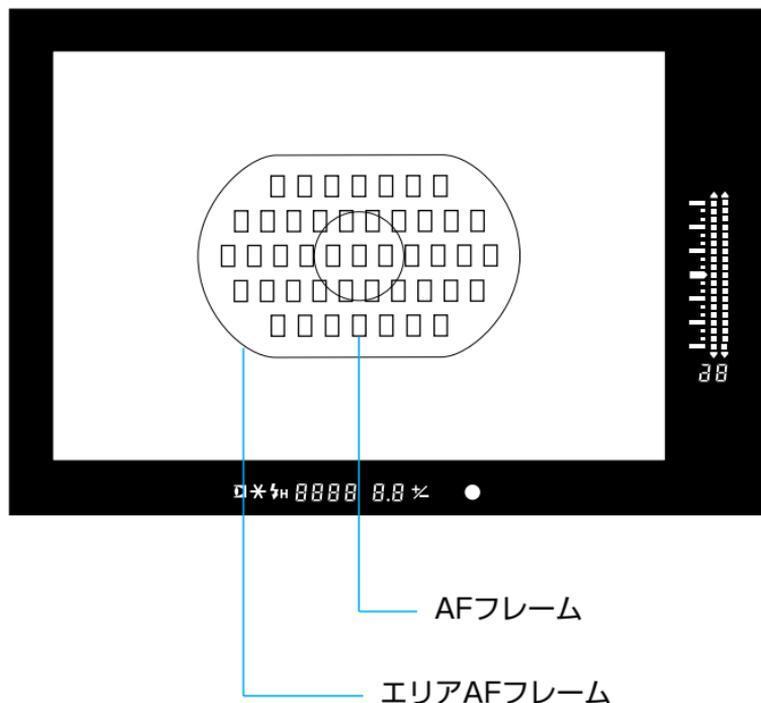


AI SERVO AF時に、選択されているAFフレームを〈☉〉ダイヤルで変えながら被写体を追うことができます。（CF-11→118）

## 2. エリアAFフレームとAFフレーム

エリアAFフレームとは被写体にピントを合わせるエリアのことをいいます。エリアAFフレーム内には45点のAFフレームが配置されており、ファインダーの広い範囲でAFが可能です。AFフレームの位置を気にすることなく自由な構図で撮影に専念することができます。被写体がエリアAFフレーム内であればカメラが自動的にピントを合わせます。

AFフレームの配置（全て点灯することはありません。）



# 3. AFフレームの選択

AFフレームの選択方法には以下の3つがあります。

## ●自動選択

撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピント合わせを行います。

## ●任意選択

45点のAFフレームから任意の1点を手動で選択します。

## ●視線入力による任意選択

エリアAFフレーム内のピントを合わせたいところを目で見て選択します。

### AFフレームの選択

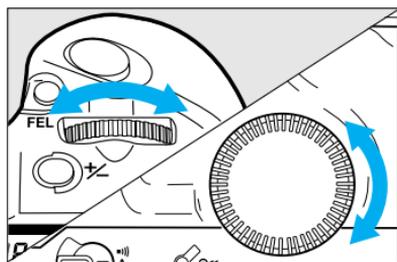
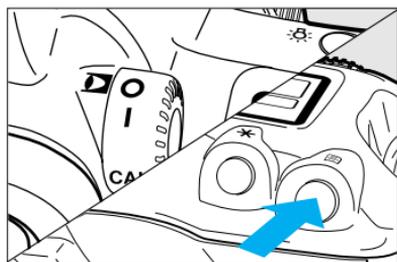
1 <D>スイッチを<O>にします。

2 <MENU>ボタンを押します。(●6)

- 現在選択されているAFフレームが点灯します。

3 <半丸><丸>ダイヤルを回してAFフレームを選択します。

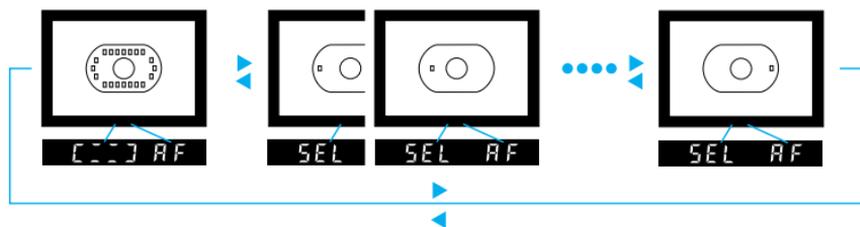
- <半丸>ダイヤルで横方向の<丸>ダイヤルで縦方向の選択ができます。



**CF** 任意選択したAFフレームの領域を広げることができます。  
(CF-17→122)

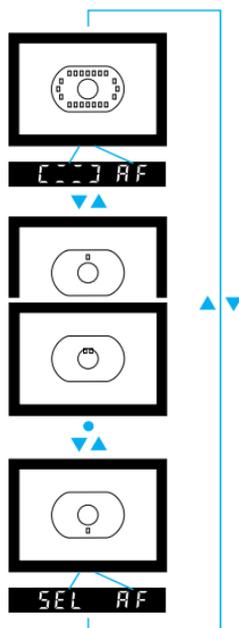
## ● <⚙️> ダイヤルによる横方向のAFフレーム選択

自動選択



- AFフレームは横一列で移動し自動選択↔左↔中央↔右↔自動選択の順に選択することができます。
- どの列も同様の動きをします。

## ● <⚙️> ダイヤルによる縦方向のAFフレーム選択



- AFフレームは縦一列で移動し自動選択↔上↔中央↔下↔自動選択の順に選択することができます。
- AFフレームは図のように1点(□)→2点(□□)→1点(□)と選択されます。
- どの列も同様の動きをします。



- (□□)の状態では撮影すると2点による自動選択AFになります。
- 2点選択してから左右に移動すると1点ずつの選択になります。

## AFフレームの選択

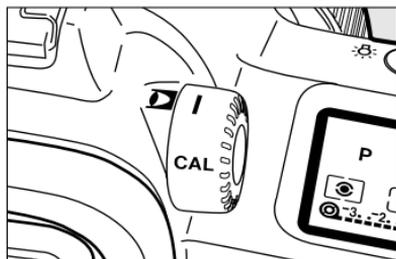


〈MENU〉ボタンを押しながら、〈FEL〉ボタンを押すと〈AF〉ダイヤルで縦方向のAFフレームが選択できます。

4 シャッターボタンの半押しまたは(6)タイマーが切れると撮影準備状態に戻ります。

**CF** AFフレームの任意選択方法を変えることができます。

- (1) 〈MENU〉ボタンの代わりに〈CAL〉ボタンを使う。(CF-11→118)
- (2) 〈MENU〉ボタンの代わりに〈CAL〉ボタンを使う。または〈AF〉ダイヤル単独で行う。(CF-11→118)
- (3) AFフレーム任意選択から自動選択に切り替えることができます。(CF-11→118)
- (4) 〈MENU〉ボタンの代わりに〈FEL〉ボタンを使う。(CF-11→118)



### 視線入力による任意選択

1 〈D〉スイッチを〈I〉にします。

2 エリアAFフレーム内でピントを合わせたい被写体を見ながらシャッターボタンの半押しします。

- 選択されたAFフレームが点灯し、そのAFフレームでピント合わせが行われます。



**CF** AFフレームの点灯を禁止したり、光り方を変更することができます。(CF-10→116)



正確な視線入力AFを行うためには自分の視線をカメラに登録（キャリブレーション）する必要があります。詳細は46ページ「視線入力特性を合わせる」、51ページ「4. 視線入力によるONE SHOT AF撮影」を参照してください。

## 視線入力AFとは

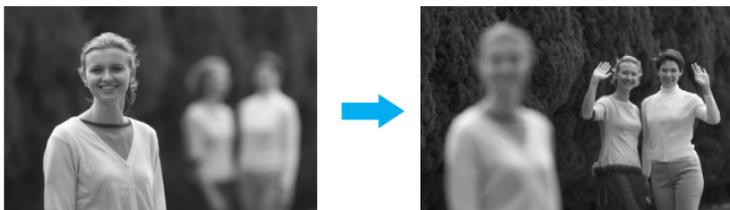
視線入力AFとは、ファインダー内のエリアAFフレームに配置されている45点のAFフレームのうち、目がどこを見ているのかをカメラが瞬時に判断して、そこにある被写体にピントを合わせる機能です。

視線入力AFはカメラを縦に構えても横に構えても使用することができます。

## 視線入力AFの利用

視線入力AFは<D>スイッチを<I>にするだけでいつでも使用することができます。視線入力AFは次のような場合に威力を発揮します。

- 撮りたいものに瞬時にピントが合います。
- 瞬時にAFフレームを切り換えることができます。



このカメラはカメラの横位置、縦位置を自動的に検出しています。カメラの構え（横位置、縦位置）を変えると、カメラ内でこの検出機構が発する音がしますが、これは異常ではありません。

## AFフレームの選択

### 視線入力特性を合わせる

視線入力AFを使用するには、ファインダー内を見ている視線の動きをカメラが正確に検知できるようにするため、自分の目の視線入力特性をカメラに登録（キャリブレーション）する必要があります。

### 自分の目の視線入力特性を登録する（キャリブレーション）

登録操作はファインダー内に点滅するAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押して行います。カメラの指示に従って水平方向で2回、垂直方向で2回の計4回操作します。登録はカメラ横位置と縦位置で行います。

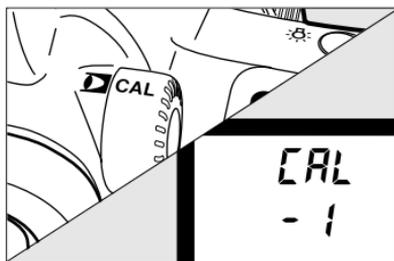
登録番号1～3に3種類の異なった視線の状態を登録することができます。

例：1＝裸眼、2＝コンタクトレンズまたは眼鏡装着、3＝あなた以外の人

- 視線の登録はファインダーをのぞいたら目を離さずに一連の操作を行ってください。
- カメラを縦位置に構えて使用する場合は、同一の登録番号に横位置と縦位置による視線登録を行ってください。



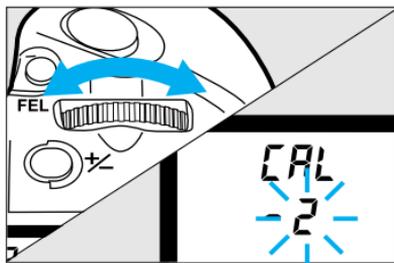
横位置のみの登録では縦位置での視線入力AFの精度が不十分な場合がありますので縦位置でも登録を行なってください。



1 <👁️>スイッチを<CAL>にします。

2 <📷>スイッチを<CAL>にします。

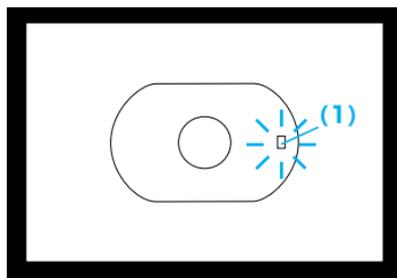
- 「CAL」と登録番号が表示されます。  
番号が点滅：視線登録が未登録の番号  
番号が点灯：すでに登録されている番号



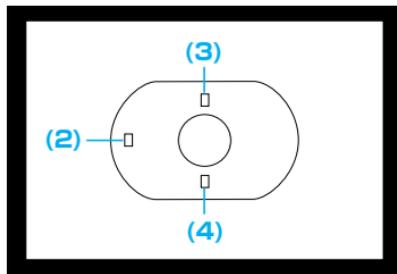
3 <🔧>ダイヤルを回して点滅する登録番号を選択します。

- 点滅している番号がない場合は50ページ「登録した視線特性の削除」を参照してください。

横に構えて登録します。  
登録は図の(1)～(4)のAFフレーム順に行います。



- 4 ファインダーをのぞき、点滅しているAFフレーム(1)を注視しながらシャッターボタンを押します。
- シャッターボタンを押すとAFフレームが点灯に変わります。
  - 「ピピッ」という電子音が鳴りAFフレームの点灯が終わるまでの1～2秒間、AFフレームを注視します。

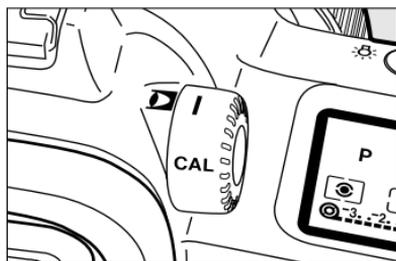
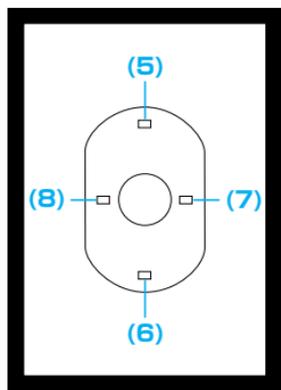


- 5 シャッターボタンから指をはなすとAFフレーム(2)が点滅を始めます。  
ステップ4、5の操作を繰り返し、(2)(3)(4)のAFフレームに登録操作を行います。



- 6 登録が完了すると、点滅していた登録番号が点灯に変わり、Endと表示されます。
- 登録操作を中断している間に、ファインダー内で点灯しているAFフレームが消えたら、シャッターボタンを押して手順「4」からやり直します。

## AFフレームの選択



縦に構えて登録します。

横位置での登録に引き続き縦位置で登録します。登録は図の(5)～(8)のAFフレーム順に行います。

- カメラを縦に構えるときグリップを上にしても下にしても、ファインダー内のAFフレームは上・下・右・左の順に点滅していきます。
- 横位置で登録した番号と同一の登録番号に縦位置の登録を行います。

**7** カメラを縦に構えてシャッターボタンを押します。

- AFフレーム(5)が点滅します。

**8** ステップ4～6と同様の手順で(5)～(8)のAFフレームに登録操作を行います。

**9** <D>スイッチを<I>にして視線登録を終了します。

- ファインダー内は視線登録操作前の状態に戻ります。



電子音が「ピピピピ…」と断続して鳴り表示パネルの表示が点滅するときは、登録がうまくいかなかった場合です。再度シャッターボタンを押して手順「4」からやり直します。



- ミラーレンズサングラスなど特殊なコーティングが施されている眼鏡では視線登録できないことがあります。
- 視線入力できない場合は自動選択AFか任意選択AFでご使用ください(→42)。

## 視線入力の学習機能

このカメラの視線登録には登録した視線のデータを蓄積する機能があります。同一の登録番号に撮影条件（屋外、室内、昼、夜、それぞれ縦、横位置の条件）が変わる度に繰り返し視線を登録すると、より多くのデータを学習し視線入力の精度が向上します。

- 同一の登録番号に別の人が登録することはおやめください。視線入力の精度が悪くなります。別の人が使うときは登録番号を変えるか、その番号の登録内容を消去してから登録します(→50ページ)。



### 登録操作のコツ

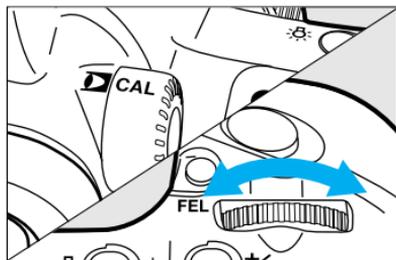
- 肩の力を抜き、自然な形でカメラを構える。
- ファインダーの中心部をすなおにのぞく位置に目を置く。
- 点滅するAFフレームのみを注視せず、AFフレーム越しに見える実際の被写体を見るようにする。
- めがね使用の場合は、めがねを正しくかける（鼻めがねは不可）。



CALは英語のCalibrationの略で調整するという意味です。

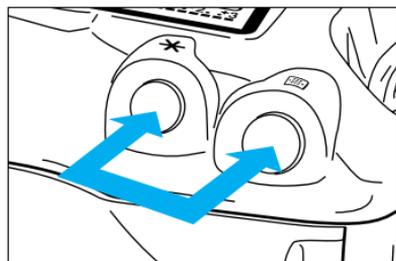
### 登録した視線特性の削除

同じ登録番号に異なる視線の状態（例えば裸眼と眼鏡）を登録したり、複数の人の視線を登録すると視線入力AFの作動が不安定になったり、誤作動を起こすことがあります。そのようなときはすでに登録されている内容を消去して、改めて登録し直します。



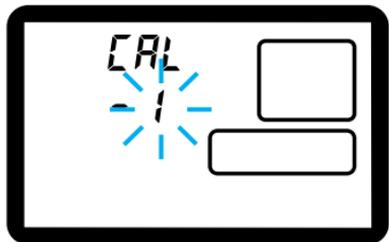
1 <D>スイッチを<CAL>にします。

2 <DIAL>ダイヤルを回して登録内容を消去する登録番号（点灯）を選択します。

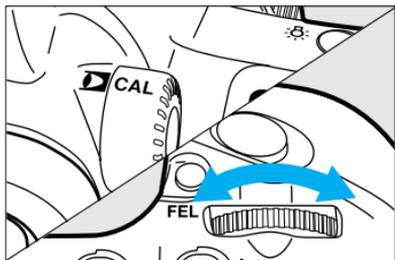


3 <＊>ボタンと<□>ボタンを同時に押します。

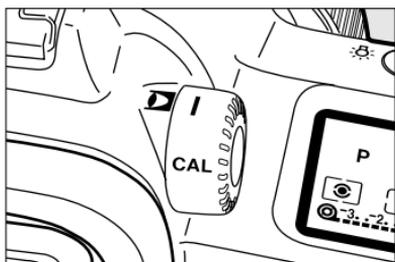
- 登録番号が点滅し、登録内容が消去されたことを表示します。



## 4. 視線入力によるONE SHOT AF撮影



- 1 <D>スイッチを<CAL>にします。
- 2 <☀>ダイヤルを回して視線登録番号を選択します。
  - 視線が登録されている番号は点灯し、未登録の番号は点滅します。



- 3 <D>スイッチを<I>にします。
- 4 撮影モードを選択します。
- 5 ファインダーでエリアAFフレーム内のピントを合わせたい所を注視しながらシャッターボタンを半押しします。
  - 選択されたAFフレームが点灯し、そのAFフレームでAFします。
- 6 撮影します。



現在の視線登録番号は次のようにして確認します。

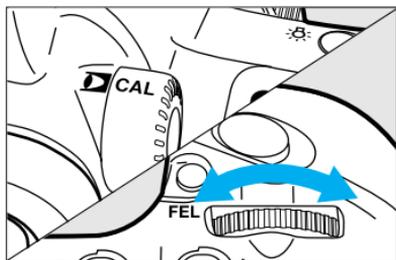


- 1 <D>スイッチを<I>にします。
- 2 <☒>ボタンを押します。
  - EYE と選択されている登録番号が表示されます。

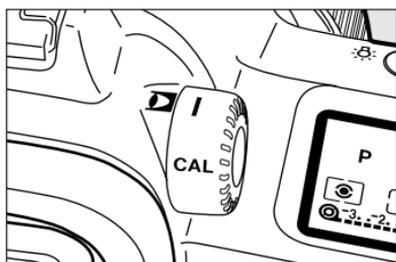


AFフレームが選択できなかった場合  
ファインダー内の<D>(視線マーク)が点滅し、自動選択AF(→42ページ)でピント合わせが行われます。

# 5. 視線入力による AI SERVO AF 撮影



- 1 <D>スイッチを<CAL>にします。
- 2 <DIAL>ダイヤルを回して視線登録番号を選択します。
  - 視線が登録されている番号は点灯し、未登録の番号は点滅します。



- 3 <D>スイッチを<I>にします。
- 4 撮影モードを選択します。
- 5 ファインダーでエリアAFフレーム内のピントを合わせたい所を注視しながらシャッターボタンを半押しします。
  - 選択されたAFフレームが点灯し、そのAFフレームで捉えた被写体にAI SERVO AFでピントを合わせ続けます。
- 6 撮影します。



- AFフレームは、最初に視線入力で選択されたAFフレーム固定となります。AI SERVO AFでピントを合わせ続けながら、視線入力での他のAFフレームを選択することはできません。
- AFフレームの選択ができなかった場合は、自動選択AFでピント合わせが行われます。(→42)

# 6. 画面の端の被写体にピントを合わせる

エリアAFフレームに入らない画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときには次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。

- フォーカスロック撮影はAFモードがONE SHOT AFに設定されているときに有効です (→39)。



1 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。



2 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変えます。

3 撮影します。

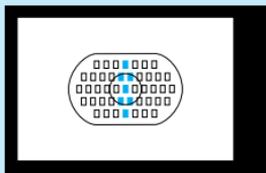


合焦と同時にAFフレームに連動したAEロックがかかるONE SHOT AFと評価測光の組み合わせをおすすめします。

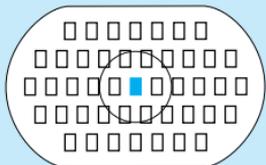
## ●使用レンズの明るさとEOS-3のAF測距について



EOS-3のAFは、すべてのAFフレームで被写体の横線成分を検出するのが基本となっていますが、使用するレンズの明るさによっては、さらに高精度なAFピント合わせが可能となっています。



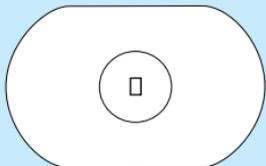
- (1) F2.8よりも明るい大口径レンズ使用時、図の色で示したAFフレームでは、十字測距（縦線横線同時検出）による高精度AF撮影が、残る38のAFフレームでは横線検出によるAF撮影ができます。十字測距は、EOS-1N、EOS-1の中央部AFフレームの特性と同じで、優れた被写体補捉能力と高精度AFの両立面で、顕著な威力を発揮します。縦線検出は横線検出の約3倍の敏感度で行われます。



- (2) 開放絞り値がF2.8-4の次のレンズでは、中央のAFフレームで十字測距による高精度AF撮影ができます。その他の44のAFフレームでは横線検出のAF撮影（EF70-200mmF2.8L USM+エクステンダーEF1.4X除く）ができます。

28-80/2.8-4L、300/4L、300/4L IS、500/4L IS、600/4L、600/4L IS、70-200/4L

- エクステンダーEF1.4Xとの組み合わせ：  
200/2.8L、200/2.8L II、300/2.8L、300/2.8L IS、400/2.8L、400/2.8L II、400/2.8L IS
- エクステンダーEF2Xとの組み合わせ：  
135/2L、200/1.8L



- (3) エクステンダー併用時に開放絞り値がF6.7-8になる次のレンズでは、中央のAFフレームで横線検出によるAF撮影ができます。中央以外のAFフレームによるAF撮影はできません。

- エクステンダーEF1.4Xとの組み合わせ：  
400/5.6L、500/4.5L、100-400/4.5-5.6L IS
- エクステンダーEF2Xとの組み合わせ：  
300/4L、300/4L IS、500/4L IS、600/4L、600/4L IS、70-200/4L

- 〈AF〉ボタンを押すと表示パネルに右の表示がでます。

-0-  
AF

## 7. オートフォーカスが苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マークが点滅する）ことがあります。

- (a) コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体
- (b) 非常に暗い場所にある被写体
- (c) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
- (d) 被写体が遠いところと近いところに共存する状態

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

- (1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
- (2) レンズのフォーカスモードスイッチを**MF**（または**M**）にして手動でピント合わせを行う。



- AFフレームを任意に選択して、手動ピント合わせでシャッターボタンを半押ししながらピント合わせをすると、選択しているAFフレームでピントが合ったときはそのAFフレームが光り合焦マークが点灯します。
- AFフレーム自動選択および視線入力による選択の場合は、中央のAFフレームでピントが合ったときにAFフレームが光り、合焦マークが点灯します。
- USM（Ultrasonic Motor/超音波モーター）レンズのとき  
USMレンズ（距離目盛りのないUSMレンズをのぞく）はONE SHOT AFで作動した後そのまま手動フォーカスリングを操作してピントを微調整することができる機構（フルタイムマニュアル）を搭載しています。



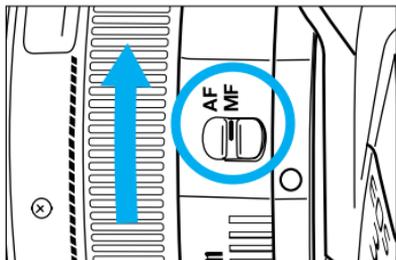
**CF** 電子式の手動フォーカスリングを採用しているUSMレンズ（EF200mm F1.8Lなど）では、レンズのフォーカスモードスイッチをMF（またはM）にしないと手動ピント合わせができないように変更することができます。  
(CF-7→114)



ストロボやST-E2のAF補助光でピントが合わない場合は、中央のAFフレームを選択してください。中央以外のAFフレームではピントが合わないことがあります。

## 8. 手動ピント合わせ(マニュアルフォーカス)

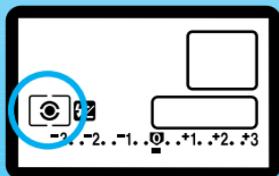
被写体にピントが合いにくいときには次のようにして手動でピントを合わせます。



- 1 レンズのフォーカスモードスイッチをMF（またはM）に切り換えます。
  - 表示パネルのAFモード表示が全て消えます。
- 2 ファインダー内の被写体をはっきり見えるまで、レンズの手動フォーカスリングを操作してピントを合わせます。

# 撮影目的に合わせた 測光方式の選択

基本的な測光方式には、評価測光、部分測光、スポット測光、中央部重点平均測光があります。さらにスポット測光には中央部スポット測光、AFフレーム連動スポット測光、マルチスポット測光があります。撮影状況や撮影意図に合わせて選択してください。



評価測光



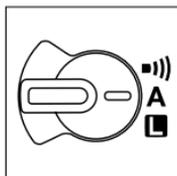
部分測光



スポット測光

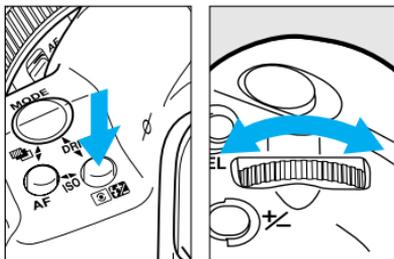


中央部重点平均測光



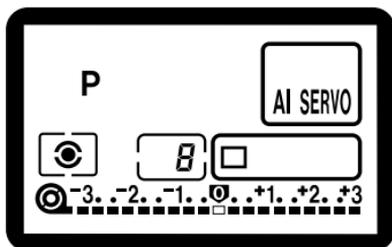
あらかじめ〈〉スイッチを〈**A**〉に設定してください。また、必要に応じ、〈〉スイッチを〈**I**〉に設定してください。

# 1. 測光方式の選択方法



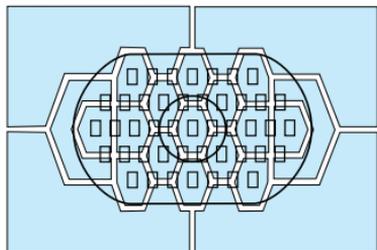
1 <Ⓞ> ボタンを押しながら <☀> ダイヤルを回し、希望する測光方式を選択します。

- 評価測光
- 部分測光
- スポット測光
- 中央部重点平均測光



2 <Ⓞ> ボタンから指を離します。

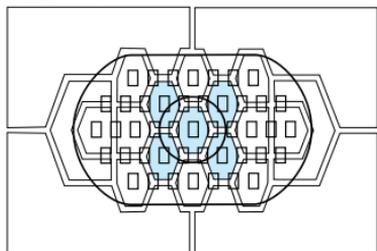
## 2. 測光方式の種類



### 評価測光 (☒)

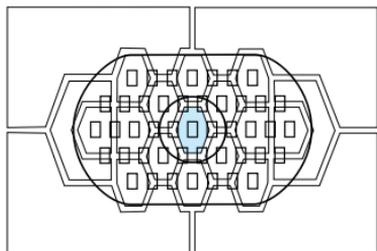
逆光撮影を含む一般の撮影に適しています。ファインダー内を21に分割して全てのAFフレームに連動した評価測光を行います。ファインダー内に占める主被写体の大きさ、位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し主被写体を常に適正な露出値にします。

- 手動ピント合わせ時は常に中央のAFフレーム基準の評価測光になります。
- 主被写体が極端な逆光下にあったり強いスポットライトを浴びているような、主被写体と背景に極端な明暗差があるときは、部分測光 (☒) またはスポット測光 (☑) の利用をおすすめします。



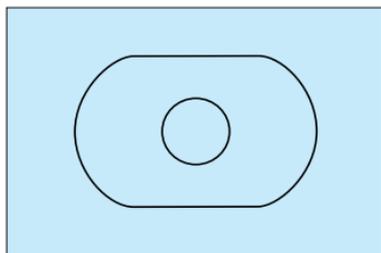
### 部分測光 (☒)

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約8.5%の範囲を測光します。



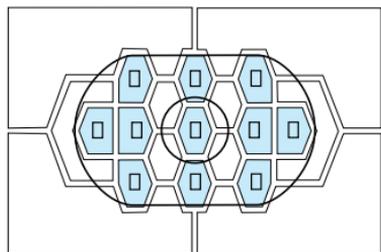
### スポット測光 (☑)

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約2.4%を測光します。



### 中央部重点平均測光 (□)

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均に測光します。



### AFフレーム連動スポット測光

機動性を上げるためカスタム機能CF-13の設定によってエリアAFフレーム内の45点のAFフレームを11点に限定し、視線入力AFで選択したAFフレームまたは任意に選択したAFフレームの周囲のみ（ファインダーの約2.4%の範囲）を測光します。

**CF** エリアAFフレームの45のAFフレームの内、AFフレームを11点に限定して中央部スポット測光することができます。(CF-13→120)



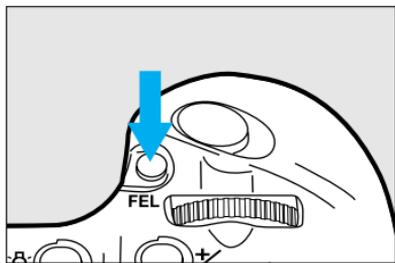
スポット測光で連続撮影中は自動的にAEロック撮影になりますが、ファインダー内に「✳」は点灯しません。

## マルチスポット測光

撮影画面のどこに露出の重点をおくかを考え、いくつかの場所をスポット測光します。以下の例では次のようにマルチスポット測光を行います。



- 1 暗い部分①をねらい、〈FEL〉ボタンを押してスポット測光します。

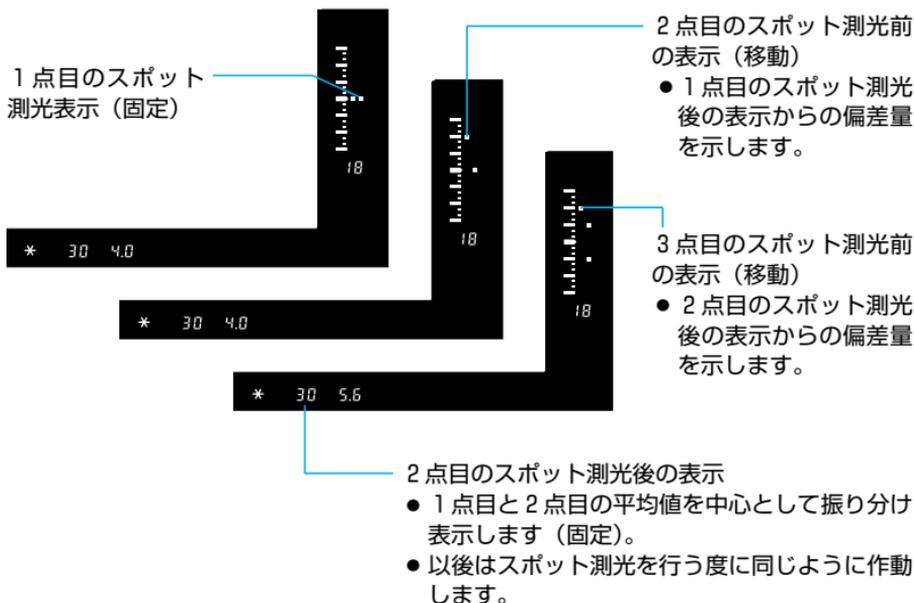


- 2 ひきつづき中輝度②の部分、最も明るい部③をねらい、それぞれ〈FEL〉ボタンを押してスポット測光します。

スポット測光するたびにその都度ファインダー下部に各露出値を平均化した値（シャッター速度と絞り数値）が表示されます。次頁の「マルチスポット測光時の露出表示」の図を参照してください。右側の露出レベル表示マークが振り分けられて移動します。3ヶ所のスポット測光の場合はマークが3つ表示されます。

## 測光方式の種類

### マルチスポット測光時の露出表示



- マルチスポット測光による露出値の記憶は次の条件で解除されます。
  - (1) スポット測光後、16秒経過したとき。
  - (2) **<M/AF-ON>** ボタン、**<MODE>** ボタン、**<AF>** ボタンを押したとき。
  - (3) 撮影後、シャッターボタンから指を離したとき。



スポット測光は8点まで行うことができます。9点目からは**<FEL>** ボタンを押しても測光は行われません。



マルチスポット測光は中央部スポット測光とAFフレーム連動スポット測光で利用できます。

# 撮影目的に合わせた 自在な応用撮影

被写体や撮影目的に合わせて、最適な撮影モードを選択することができます。そして、簡単な操作でさまざまな写真表現を行うことができます。

M : マニュアル (→75)  
Tv : シャッター優先 (→64)  
DEP : 深度優先AE (→70)  
Av : 絞り優先AE (→67)

多重露出 (→84)

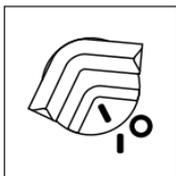
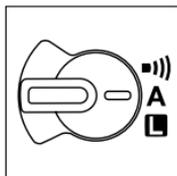
露出補正 (→77)

bulb (→86)

AEB (→79)

フィルム巻き上げ (→87)

セルフタイマー (→89)



あらかじめ〈A〉スイッチを  
〈A〉に設定してください。  
また、必要に応じ、〈I〉ス  
イッチを〈I〉に設定してく  
ださい。

# 1. シャッター速度を決めて撮る／Tv (シャッター優先AE撮影)

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮ることができます。シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。



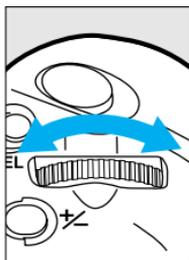
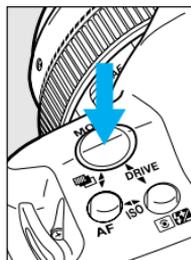
TvとはTime value (タイムバリュー) の略で時間量のことです。



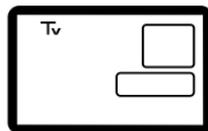
速いシャッター速度



遅いシャッター速度



1 <MODE> ボタンを押しながら <☀> ダイヤルを回し、Tvを選択します。



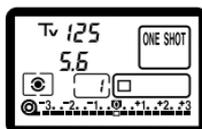
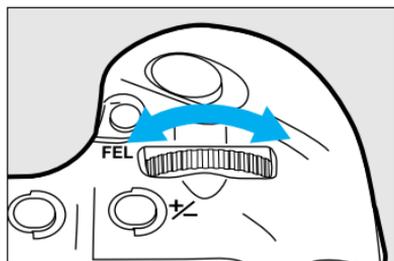
## シャッター速度を決めて撮る / Tv (シャッター優先AE撮影)

2 <MODE> ボタンから指を離します。

3 <ダイヤル> を回して希望するシャッター速度を設定します。

4 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- シャッター速度と絞り数値が表示されます。



5 絞り数値を確認して撮影します。

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

### <写真の基本用語ミニ解説 ②>

#### ●シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムに当たる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度と言います。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示されるシャッター速度は、8000 (1/8000秒) ~30" (30秒)、buLb (バルブ) となっています。

## シャッター速度を決めて撮る／Tv（シャッター優先AE撮影）

### [露出警告]

- 使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで  ダイヤルを回してシャッター速度を遅くします。



- 使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで  ダイヤルを回してシャッター速度を速くします。



**CF** セーフティシフト機能を付加することができます。(CF-16→122)  
設定したシャッター速度に対して絞り数値が変化しても適正露出が得られないとき、シャッター速度が自動的に高速側または低速側にシフトして適正露出が得られるようにします。これをセーフティシフトといいます。

**CF** 1/3段ステップのシャッター速度の設定を1段または1/2段ステップに変更することができます。(CF-6→114)

## 2. 絞り数値を決めて撮る／ Av（絞り優先AE撮影）

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を小さくする（開く）と、背景をぼかした美しいポートレート写真が撮れます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る奥行きが深くなります。



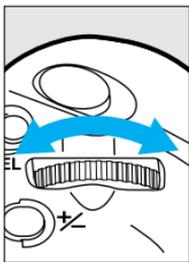
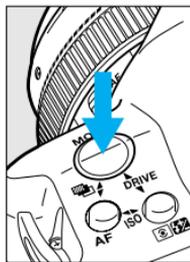
AvとはAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



小さい絞り数値



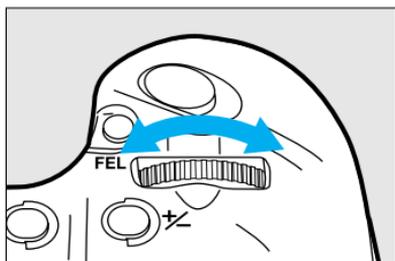
大きい絞り数値



- 1 <MODE> ボタンを押しながら   
ダイヤルを回し、Avを選択します。



## 絞り数値を決めて撮る / Av (絞り優先AE撮影)

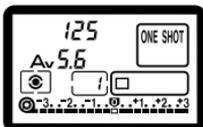


2 <MODE> ボタンから指を離します。

3 <ダイヤル> を回して希望する絞り数値を設定します。

4 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- シャッター速度と絞り数値が表示されます。



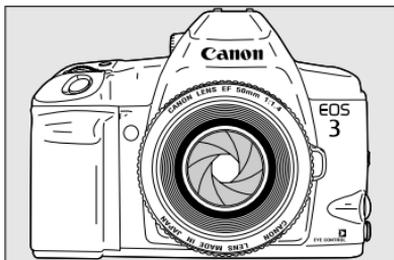
5 シャッター速度を確認して撮影します。

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。
- シャッター速度が「1 / 使用レンズの焦点距離」以下になると手ぶれが起きやすくなりますのでご注意ください。

### <写真の基本用語ミニ解説 ③>

#### ●絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、フィルムに当たる光の量を調整します。この開口部の大きさのことを絞り値と言います。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、1.0～9.1となっています。



## [露出警告]

- シャッター速度の「30"」が点滅するときは、露出アンダーです。シャッター速度の点滅が止まるまで<img alt="aperture icon" data-bbox="465 190 495 210"/>ダイヤルを回して絞りを開いて（絞リ数値を小さくして）ください。



- シャッター速度の「8000」が点滅するときは、露出オーバーです。シャッター速度の点滅が止まるまで<img alt="aperture icon" data-bbox="465 390 495 410"/>ダイヤルを回して絞りを閉じて（絞リ数値を大きくして）ください。



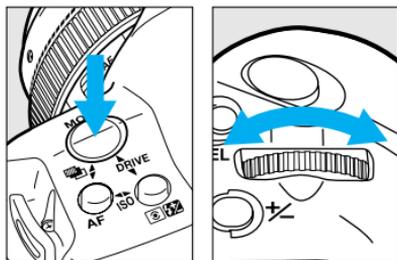
- CF** セーフティシフト機能を付加することができます。（CF-16→122）設定した絞リ数値に対してシャッター速度が変化しても適正露出が得られないとき、絞リ数値が自動的に一番小さな絞リ数値（最大口径絞リ）側または一番大きな絞リ数値（最小口径絞リ）側にシフトして適正露出が得られるようにします。これをセーフティシフトといいます。
- CF** 1/3段ステップの絞リ数値の設定を1段または1/2段ステップに変更することができます。（CF-6→114）
- CF** 絞リ優先AE撮影では、レンズを外した状態でも絞リ数値を設定することができます。（CF-5→112）

### 3. ピントの合う範囲を決めて撮る/ DEP (深度優先AE撮影)

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るときなどに、鮮明に写したい範囲を指定して写すことができます。近景から遠景までを鮮明に写すために最適なピント位置とそのために必要な絞り数値、それに応じたシャッター速度をカメラが自動的に設定します。これを深度優先AEといいます。任意のAFフレームを選択して行う方法、視線入力AFで行う方法があります。

- レンズのフォーカスモードスイッチがMF (またはM) に設定されていると深度優先AE撮影ができません。フォーカスモードスイッチをAFに設定します。

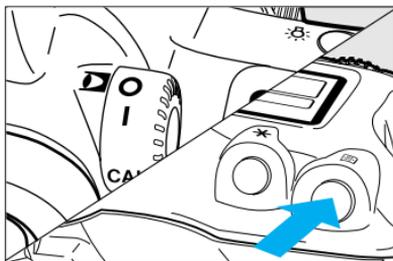
#### 選択したAFフレームによる方法



- 1 <MODE> ボタンを押しながら <DEP> ダイヤルを回し、DEPを選択します。



- 2 <MODE> ボタンから指を離します。
- 3 <AF-ON> スイッチを <O> にします。
- 4 AFフレームを選択します。





5 選択したAFフレームを被写体の1点目に合わせ、シャッターボタンを押します。(⦿6)

- 合焦マークが点灯し **dEP 1** と表示されます。



- AFフレームが2つ選択されているときは(→43)、2点による自動選択AFでの深度優先AEとなります。



6 同じAFフレームを被写体の2点目に合わせ、シャッターボタンを押します。(⦿6)

- 合焦マークが点灯し **dEP 2** と表示されます。
- 2点目、1点目の順に操作しても同じ効果が得られます。



7 構図を決めシャッターボタンを半押しして、シャッター速度と絞り数値を確認します。(⦿6)

- 1点目と2点目の中間距離にピントが設定されます。鮮明に写すために必要な絞り数値と、それに対応したシャッター速度が表示されます。
- シャッターボタンから指を離すと表示は **dEP** と絞り数値に変わります。
- 露出はシャッターが切れる直前に決まります。



8 撮影します。

## ピントの合う範囲を決めて撮る／DEP（深度優先AE撮影）

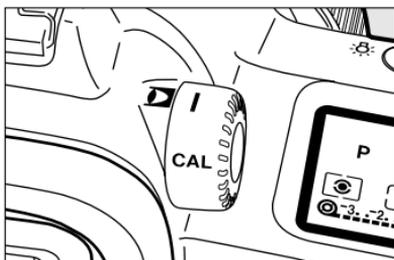


### 自動選択のAFフレームによる方法

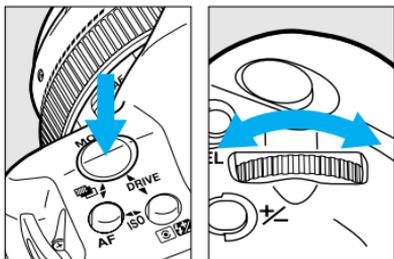
自動選択AFフレームによる深度優先AE撮影では、中央のAFフレームのみによるピント合わせになります。それ以外の基本的な操作手順や注意事項は「選択したAFフレームによる方法」と同じです。

## 視線入力AFによる方法

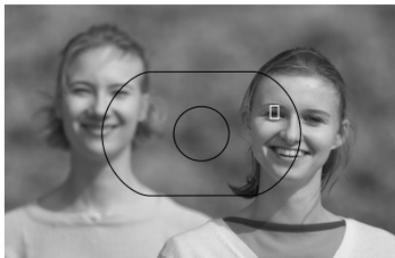
構図を大きく変えずに深度優先AE撮影するときは視線入力AFを併用します。より簡単な深度優先AE撮影が可能です。



- 1 <D>スイッチを<I>にします。
  - 自分の視線登録番号が選択されていることを確認します（→46ページ）。



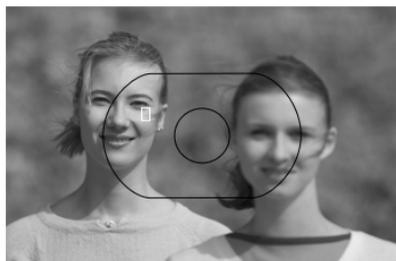
- 2 <MODE>ボタンを押しながら<半露出ダイヤル>を回し、DEPを選択します。
- 3 <MODE>ボタンから指を離します。



- 4 手前の被写体を注視しながらシャッターボタンを押します。（※6）
  - 注視したAFフレームが点灯します。
  - 合焦マークが点灯し、dEP 1と表示されます。



## ピントの合う範囲を決めて撮る／DEP（深度優先AE撮影）



- 5 奥の被写体を注視しながらシャッターボタンを押します。(Ⓜ6)
- 注視したAFフレームが点灯します。
  - 合焦マークが点灯し、dEP 2 と表示されます。



- 6 撮影します。
- 露出は3回目にシャッターボタンを押すときに注視した被写体を中心に決まります。もしそのときAFフレームを注視していなかった場合は中央のAFフレームで露出が決まります。



### [露出警告]

- 絞り数値が点滅する場合は希望どおりの効果が得られません。(ただしこのまま撮影しても適正露出で撮影されます。) 広角レンズを使用するか、被写体から離れて手順「4」～「6」の操作をします。



- シャッター速度の「30''」と使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）が点滅するときは、露出アンダーで深度優先AE撮影できません。



- シャッター速度の「8000」と使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点滅するときは、露出オーバーです。レンズを通る光の量を減らすNDフィルターを付けて撮影します。

## ピントの合う範囲を決めて撮る／DEP（深度優先AE撮影）



- ズームレンズを使用しているときは、撮影が終わるまでズーム操作をしないでください。
- 深度優先AE撮影操作中にAFフレームを選択しなおすと、設定された深度優先AE撮影のデータが解除されます。その場合は選択しなおしたAFフレームで最初から深度優先AE撮影をします。
- 深度優先AE撮影とストロボ撮影は併用できません。併用した場合はプログラムAE撮影でのストロボ使用と同じになります。
- ピント合わせ範囲を設定できるレンズ（EF300mm F2.8Lなど）を使用して深度優先AE撮影するときは、レンズのゾーン切り換えスイッチを「至近～∞」に設定します。



- シャッター速度が遅くなったときは手ぶれ防止のため三脚をご使用ください。
- 操作の途中で（6）タイマーが切れると深度優先AEの途中データは解除されます。そのときは最初からやりなおしてください。
- 深度優先AE撮影を途中で解除するときは、〈MODE〉ボタンまたは〈AF〉ボタン、〈〉ボタンのいずれかを押します。

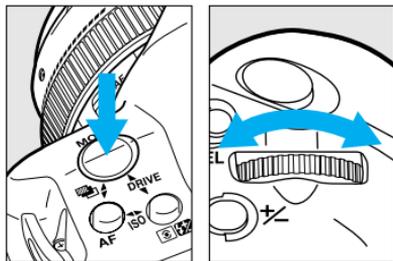


- 被写界深度を深くしたいときは、広角レンズをお使いになることをおすすめします。
- 1点目と2点目のピント合わせを被写体の同じ部分で行うとピントが合う範囲は浅くなります。人物撮影などで、この方法を応用すると人物の前景および背景をぼかした写真を撮ることができます。望遠レンズを使用するといっそう効果的です。

## 4. 自分で露出を決めて撮る／ M（マニュアル露出撮影）

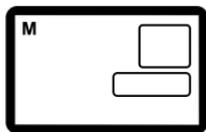
シャッター速度と絞り数値を任意に決めて撮影するときには設定します。露出はファインダー内の露出レベルマークを参考にしたり、単独露出計を利用し自分で任意に決めます。

〈〉ダイヤルでシャッター速度を、〈〉ダイヤルで絞り数値を設定します。

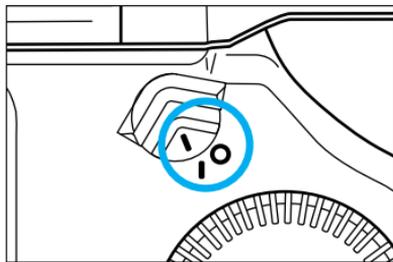


### 内蔵の露出計機能を利用する

- 1 〈MODE〉ボタンを押しながら〈〉ダイヤルを回し、Mを選択します。



- 2 〈MODE〉ボタンから指を離します。
- 3 〈〉スイッチを〈I〉に設定します。



- 4 〈〉ダイヤルでシャッター速度を、〈〉ダイヤルで絞り数値を設定します。
  - 絞り数値を〈〉ボタンと〈〉ダイヤルで設定することもできます。

## 自分で露出を決めて撮る／M（マニュアル露出撮影）



- 5 ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しします。露出値が表示されます。ファインダー内右側の露出レベル表示マークで適正露出からどのくらいずれているか確認することができます。
- 6 露出レベル表示マークを確認し任意のシャッター速度、絞り数値を設定して撮影します。

---

**CF** <☀>ダイヤルと<⌚>ダイヤルの機能を入れ換えることができます。

(CF-5→112)

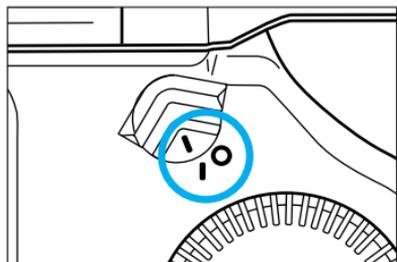
**CF** 1/3段ステップのシャッター速度および絞り数値の設定を、1段または1/2段ステップに変更することができます。(CF-6→114)

**CF** レンズを外した状態で絞り数値を手動設定することができます。(CF-5→112)

---

# 5. 自分の好みに露出を補正する

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。ファインダーをのぞいたまま<☉>ダイヤルで行う方法と<⌘>ボタンで行う方法があります。一度設定された補正量の変更／解除はどちらの方法でも行うことができます。露出補正量は1/3段ステップで+3段から-3段の範囲です。



## <☉>ダイヤルによる補正

1 <☉>スイッチを<I>に設定します。

2 被写体にピントを合わせ露出の表示を確認します。

3 <☉>ダイヤルを回して希望する補正量を設定します。

- <☉>ダイヤルの操作はシャッターボタン半押し中か、シャッターボタン半押し後（6）作動中のみ有効です。
- ファインダー内に露出補正表示（）と露出レベル表示マーク（）が、表示パネルの露出補正表示部に補正量が表示されます。
- ファインダー内表示の上側は露出オーバーを、下側は露出アンダーを示します。表示パネルの+側は露出オーバーを、-側は露出アンダーを示します。
- 露出補正を解除するときは補正量を適正露出指標（）の位置に戻します。



露出オーバー表示



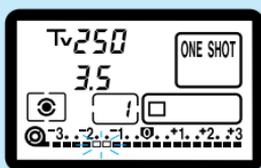
露出アンダー表示

4 撮影します。

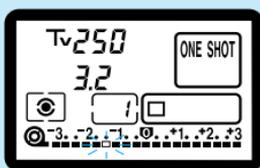
## 自分の好みに露出を補正する

**CF** 露出補正量を1/2段ステップに変更することができます。(CF-6→114)

- カスタム機能CF-6で露出補正量を1/2段ステップで設定した場合および1/3段ステップで設定した場合、ファインダー内の露出レベル表示マークと表示パネルの露出補正表示部の補正量表示は図のようになります。
- 設定した補正量は〈〉スイッチを〈〉にしても記憶されています。



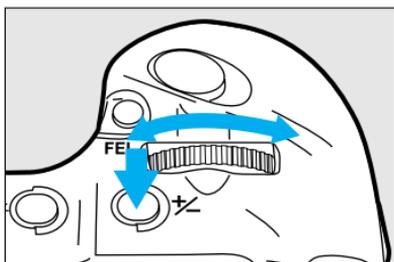
1 1/2 段アンダーの例



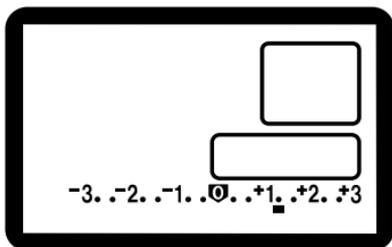
1 1/3 段アンダーの例

## 〈〉ボタンによる補正

〈〉ボタンと〈〉ダイヤルを使用しても露出補正することができます。



〈〉ボタンを押し（6）作動中に、〈〉ダイヤルを回して希望する補正量を設定します。



- フィルム1本を同一の補正值で使用するとき便利です。
- 不用意に〈〉ダイヤルが動いて補正值が変わらないようご注意ください。〈〉スイッチを〈〉にすると安全です。

## 6. 露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影

設定した露出補正量の幅に従って、自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影することができます。これをAEB (Auto Exposure Bracketing) 撮影といいます。標準露出値 (露出補正が設定してあればその補正值) を中心に、1/3段ステップで+3段から-3段の範囲でAEB撮影の補正量を設定することができます。設定してあるフィルム巻き上げモード (87ページ「11. 一枚撮影・連続撮影の切り換え」を参照) で標準露出、露出アンダー、露出オーバーの順で撮影します。



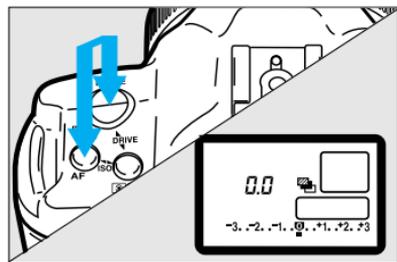
標準露出 (0)



露出アンダー (-1/3)

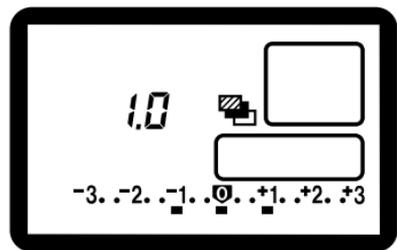


露出オーバー (+1/3)



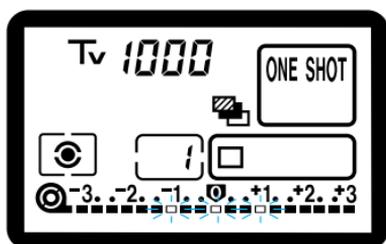
1 <MODE>ボタンと<AF>ボタンを同時に押します。

- 表示パネルにが表示されます。



2 そのまま<DIAL>ダイヤルを回して露出補正量を設定します。

- 表示パネルには数値と点が表示されません。図は標準露出を中心に1段補正したときの表示です。



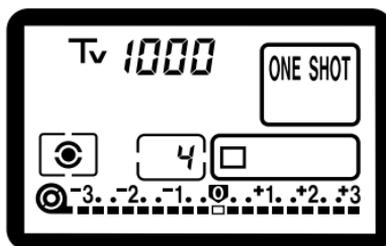
1段補正表示の例

3 設定してあるフィルム巻き上げモードに従って撮影します。

- ファインダー内の露出レベル表示マークには撮影順に補正位置が表示されます。
- 連続撮影でシャッターボタンを全押しし続けると3コマ連続撮影し、自動停止します。
- セルフタイマーを併用したときは、2秒または10秒後に、自動的に3コマ連続撮影されます。



3コマの撮影が終わるまで表示パネルの $\blacksquare$ マークとファインダー内の $\star$ が点滅してAEB撮影中であることを知らせます。



### AEB撮影の解除

ステップ1と2の操作で露出補正量を0にします。

- レンズの交換、フィルムの巻き戻し、フィルムの交換、バルブ撮影の設定、ストロボの充電完了、〈CLEAR〉ボタン押し、〈 $\odot$ 〉スイッチ〈 $\blacksquare$ 〉でも解除されます。

**CF** 露出補正量を1/2段ステップに変更することができます。(CF-6→114)

撮影順を露出アンダー、標準露出、露出オーバーに変更することができます。(CF-9→116)

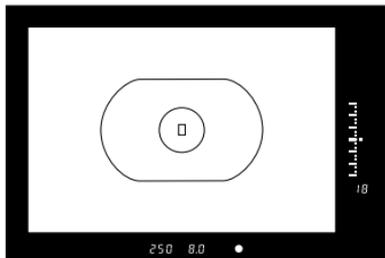
AEB撮影を、レンズの交換、フィルムの巻き戻し、フィルムの交換、〈 $\odot$ 〉スイッチ〈 $\blacksquare$ 〉で解除しないようにすることができます。(CF-9→116)



- 連続撮影中のファインダー内情報は表示されません。
- AEB撮影で露出補正幅を設定したあと、77ページの「5. 自分の好みに露出を補正する」を併用してアンダー側またはオーバー側でのAEB撮影を行うことができます。
- ストロボ撮影およびバルブ撮影とAEB撮影との併用はできません。
- カスタム機能CF-12でミラーアップを設定した状態でAEB撮影する場合、フィルム巻き上げモード（1枚撮り、連続撮影）にかかわらず1枚撮りになります。

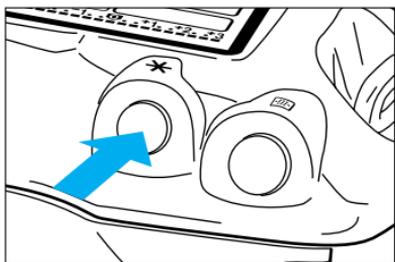
## 7. 露出を固定して撮る／AEロック撮影

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。露出値を決めたあとで構図を変える必要がある撮影にご利用ください。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。



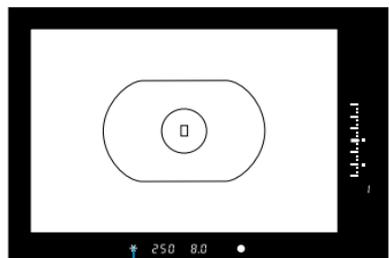
1 露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルおよびファインダーに露出値が表示されます。



2 <＊>ボタンを押します。(☉6)

- ファインダー内に＊が表示され、露出値が固定（AEロック）されます。
- <＊>ボタンを押し直す度に、そのときの露出値をAEロックします。
- ＊が表示されてから(☉6)が切れるか、<AF>ボタン、<☉>ボタン、<MODE>ボタンのいずれかを押しすと、AEロックは解除されます。



AEロック表示

3 目的の被写体にピントを合わせて構図を決めなおし、撮影します。

- 構図を変えると、露出レベル表示マーク上にAEロックした露出値と新しい露出値がリアルタイムで表示されます。



AEロック露出値

リアルタイム露出値

**CF** <★> ボタンの代わりにシャッターボタンを半押ししてAEロックを行い、<★> ボタンでピントを合わせることもできます。(CF-4-1→110)



一点に的確にAEロックを行う場合は部分測光またはスポット測光の使用をおすすめします。(→58)

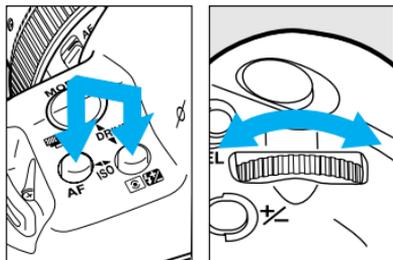


ONE SHOT AFと評価測光の組み合わせの場合、シャッターボタンを半押ししてピントが合うと同時に自動的にAEロックされます。

## 8. フィルム感度の手動設定

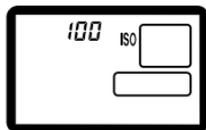
DXコードがついていないフィルムを使用する場合、またはフィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定する場合は、フィルムを装填してから次のようにします。

- 設定できるフィルム感度の範囲はISO 6~6400です。



1 <AF> ボタンと<ISO> ボタンを同時に押します。

- ISOとそのとき設定されているフィルム感度が表示されます。



2 そのまま表示パネルに希望するフィルム感度が表示されるまで<ISO>ダイヤルを回します。

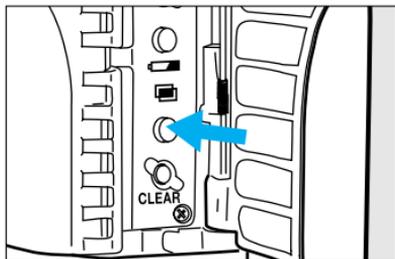
3 ボタンから指を離すと設定されます。



フィルム感度を手動で設定してもDXコードがついているフィルムに入れ換えると手動で設定した数値は解除されます。

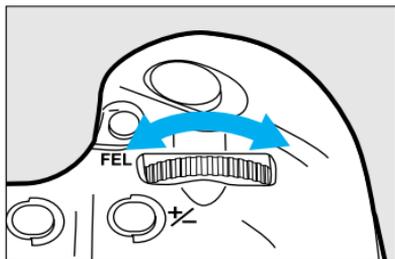
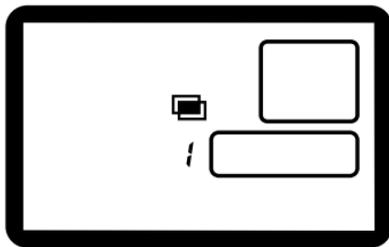
## 9. 多重露出撮影 [ ]

撮影後フィルムを次のコマに送らず、同じコマで複数回撮影することを多重露出撮影といいます。1度の操作で9回までの多重露出撮影回数を設定することができます。多重露出撮影はどの撮影モードとも併用することができます。

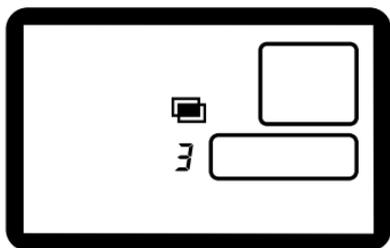


1 側面カバーを開けて  ボタンを押します。

- 表示パネルに  が表示され、同時にフィルムカウンター表示が ! と変わります。このフィルムカウンター表示の数値が多重露出回数を表示します。



2  ダイヤルを回して希望する多重露出回数を設定します。



3回の多重露出の場合

- 3 シャッターボタンを半押しするか〈6〉タイマーが切れると撮影準備状態になります。
- 4 撮影モードを選択して撮影します。
- 5 設定した多重露出撮影回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ多重露出撮影は自動的に解除されます。



多重露出撮影をフィルムの最初と最後の数コマで行うと、フィルムの巻きぐせにより被写体の重なり具合が微妙にずれることがあります。



- 多重露出撮影中は [ ] が点滅します。
- 多重露出撮影を撮影開始前に解除するには、多重露出回数を 1 に設定します。
- 多重露出撮影の途中で多重露出撮影を解除するときは、その時点で手順「1」、「2」の操作で多重露出回数の表示を空白にします。



多重露出撮影は一つのコマに何度も撮影するので露出値をあらかじめマイナス側に補正しておく必要があります。77ページ「5. 自分の好みに露出を補正する」を参照してください。

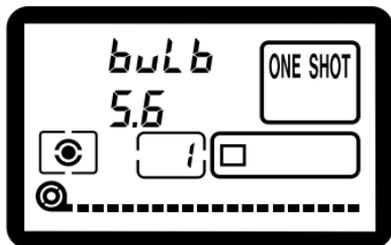
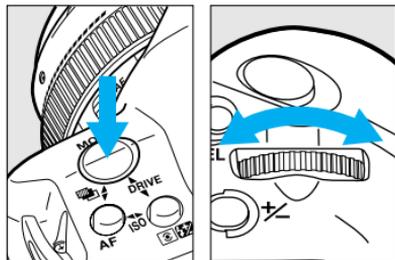
露出補正量のおおよその目安

多重露出の回数	2回	3回	4回
補正量の目安	-1.0	-1.5	-2.0

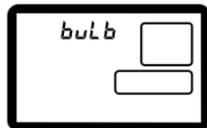
- この補正量はあくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わります。あらかじめ撮影データを求めておいてください。

# 10. バルブ撮影[bulb]

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。



1 <MODE> ボタンを押しながら<☀>ダイヤルを回して **bulb** を表示します。



2 <MODE> ボタンから指を離します。

3 <☀> スイッチを <I> に設定します。

4 <☀> (または <☀>) ダイヤルで絞り数値を設定します。

5 撮影します。シャッターボタンは押し続けてください。



- 表示パネルのフィルムカウンター表示部が、シャッターを切ったからの経過時間表示に変わります。30秒経過するごとにバッテリーチェックバー(■■■)が1本ずつ表示され、3本の表示と経過時間表時の「30」で120秒間を計ることができます。
- バルブ撮影は、ほとんど電池消費のない省電設計です。
- 従来のリモートコントローラ(リモートスイッチ60T3など)を使用するときはリモートスイッチアダプターRA-N3(別売)を併用してください。



シャッターボタンを押し続ける機能がついているリモートスイッチRS-80N3(別売)やタイマーリモートコントローラTC-80N3(別売)をカメラのリモコン端子に接続して使用すれば、シャッターボタンを押し続ける必要はありません。

# 11. 一枚撮り・連続撮影の切り換え

フィルムの巻き上げには一枚撮りと連続撮影の2種類があります。

## 一枚撮り (□)

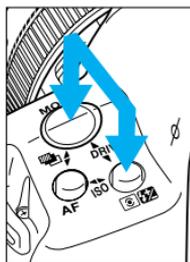
撮影したあとカメラが自動的にフィルムを1コマ巻き上げます。

## 連続撮影 (☑)

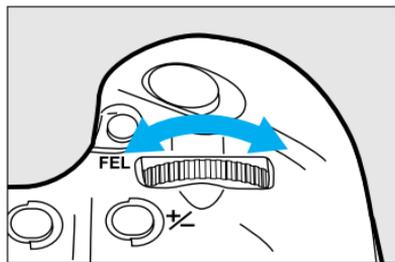
シャッターボタンを押し続けている間、1秒間に約4.3コマで連続撮影します。



- 連続撮影時の撮影コマ数はシャッター速度を1/250秒以上に設定したときの数値です。
- 撮影後シャッターボタンを半押し位置まで戻すだけで、AEロックのまま次の撮影を行うことができます (ONE SHOT AFと評価測光の組み合わせの場合のみ)。



- 1 <MODE> ボタンと<☑>を同時に押します。
  - フィルム巻き上げモードが表示されず。



- 2 そのまま<☑>ダイヤルを回して希望するフィルム巻き上げモードを選択します。
- 3 ボタンから指を離すと設定は完了します。

□、、、が点滅するときは

低温下の撮影で電池の容量が急激に低下したり、フィルム巻き上げが重くなった場合には自動的にフィルム巻き上げ速度を遅くして、巻き上げ速度よりも巻き上げる力を優先する機能が組み込まれています。この機能をフィルム巻き上げ自動変速機能といいます。この機能が働くと表示パネルのフィルム巻き上げ表示（□、、、）のいずれかが点滅します。この機能の解除は、〈MODE〉ボタンと〈〉ボタンの同時押し、フィルムの交換や電池の交換によって行われます。この機能が作動したときは電池容量の確認（→26）を行いその結果の指示に従ってください。

- フィルムの巻き上げや巻き戻しが途中で停止すると表示パネルに  が点滅します。新品の電池に交換すると、フィルムの巻き上げは継続され、フィルムの巻き戻しは〈〉ボタンを押せば継続されます。
- 寒冷地では電池をポケットなどに入れて暖めると使えるようになることもあります。

## カメラの状態による連続撮影コマ数

約（コマ/秒）

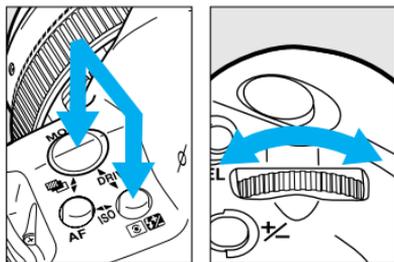
組み合わせ状態	電源	フィルム巻き上げモード	ONE SHOT AF / マニュアルフォーカス	AI SERVO AF
EOS-3単体	リチウム電池2CR5×1個		4.3	3.3
EOS-3+BP-E1	単3形アルカリ乾電池×4本			
EOS-3+PB-E2	ニッケル水素バックNP-E2		7	7
			3	3
	単3形アルカリ乾電池×8本		6	5
			3	3
EOS-3+パウドライブプースター-E1	単3形アルカリ乾電池×8本		6	5
			3	3



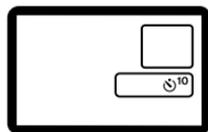
連続撮影中はファインダー内の情報は表示されません。

# 12. セルフタイマー撮影

セルフタイマーにはシャッターボタンが押されてから約10秒後に撮影する10秒タイマーと、約2秒後に撮影する2秒タイマーの2種類があります。セルフタイマーを利用しての撮影には三脚を使用します。



- 1 <MODE> ボタンと<☉> ボタンを押しながら<☉>ダイヤルを回して、希望するセルフタイマーを選択します。

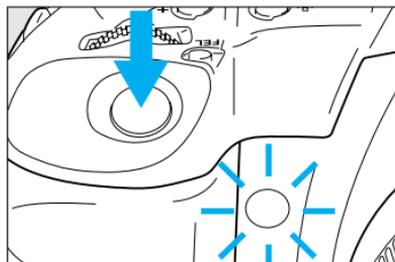


☉<sup>10</sup> : 10秒タイマー

☉<sub>2</sub> : 2秒タイマー



2秒タイマーは接写や複写撮影時のカメラぶれ（シャッターボタンを押したときにカメラがわずかに揺れること）を防ぐときなどに有効です



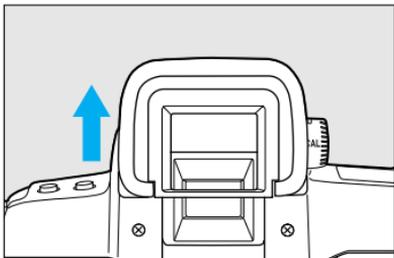
- 2 ファインダーをのぞいてシャッターボタンを半押しし、合焦マークの点灯と露出表示を確認します。
- 3 シャッターボタンを全押しします。セルフタイマー作動表示ランプが点滅を始め、セルフタイマーが作動中であることを知らせます。撮影2秒前になると点滅が速くなります。
  - セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、<☉>スイッチを<☑>にします。



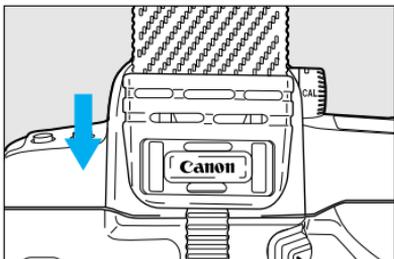
レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

### アイピースカバーの使い方

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すとファインダーから入った光によって露出が狂うことがあります。そのようなときはアイカップを外して、ストラップに付属しているアイピースカバーを接眼部に取り付けます。



1 アイカップを取り外します。

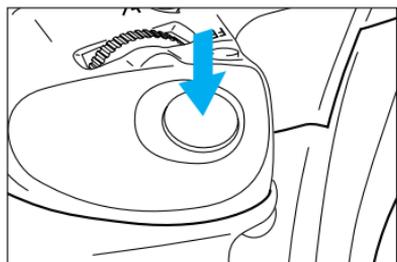


2 アイピースカバーを接眼部に差し込みます。

# 13. ミラーアップ撮影

カスタム機能CF-12 (→118) を利用して、ミラーアップと露光を別々に行うミラーアップ撮影を行うことができます。ミラーショックが気になる接写や超望遠レンズを使用するときにご活用ください。カスタム機能の設定は106ページ「1. カスタム機能の設定と解除」を参照してください。ミラーアップ撮影を設定すると、カメラの作動は以下のようになります。

- ミラーアップ撮影には別売のリモートスイッチRS-80N3 (別売) の併用をおすすめします。



- 1 シャッターボタン全押しでミラーが上がります。
  - ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーは自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しするとミラーアップします。
- 2 一度シャッターボタンから指を離し、再度シャッターボタンを全押しするとシャッターが切れてミラーは下がります。

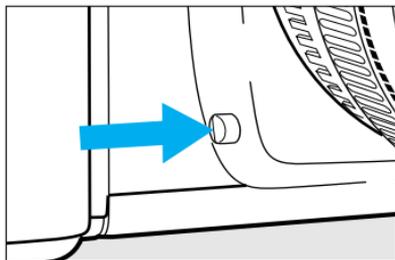


- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでのミラーアップ撮影では、ミラーアップ安定後速やかにシャッターを切ってください。
- ミラーアップ撮影ではレンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するとき、セルフタイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが実際は撮影されていませんのでご注意ください。



- ミラーアップ撮影は、フィルム巻き上げモードの設定 (1枚撮り・連続撮影) にかかわらず1枚撮りになります。
- セルフタイマーとミラーアップを併用すると、始めのシャッターボタン全押しでミラーが上がって10秒セルフタイマーのときは10秒後に、2秒セルフタイマーのときは2秒後にシャッターが切れます。

## 14. 被写界深度の確認

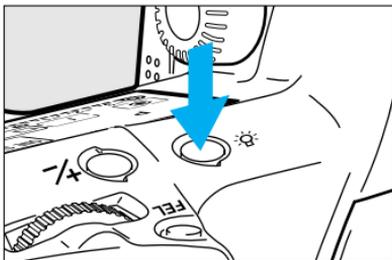


ピントを合わせた被写体を中心にその前後にもピントの合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といいます。被写界深度確認ボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、ピントの合っている範囲をファインダーで確認することができます。



- 被写界深度確認ボタンを押すとAEロック状態になります。
- AF作動中は被写界深度確認ボタンは機能しません。

## 15. 表示パネルの照明



表示パネルには照明機能が付いています。〈☀〉ボタンを押すたびに照明は点いたり（☀6）消えたりします。暗い場所での撮影などで表示パネルが見にくいときなどにご利用ください。表示パネルの照明は撮影終了後、約2秒で自動的に消えます。

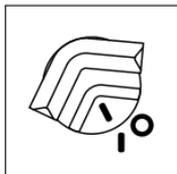
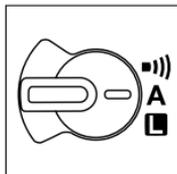
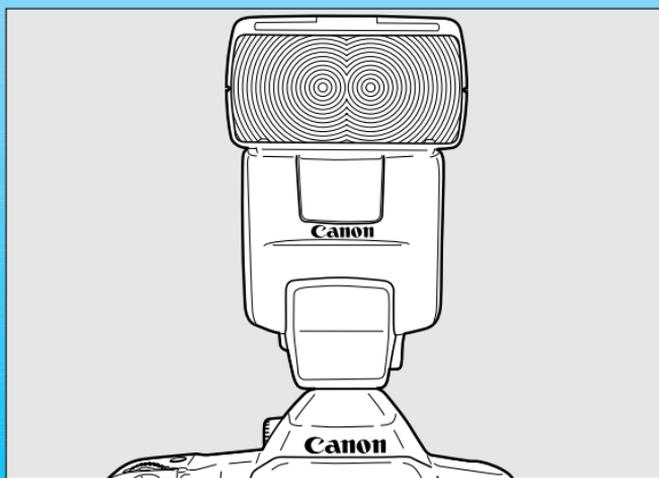


- 表示パネルが照明されている間に各種の操作ボタンを操作すると照明時間は延長されます。
- バルブ撮影では、撮影開始と同時に表示パネルの照明は消えます。

# ストロボ撮影

このカメラでは、EOS専用のEX/EZシリーズスピードライトを使用して、通常のAE撮影と同じ感覚で簡単にストロボ撮影を行うことができます。特に、EXシリーズスピードライトと組み合わせると、通常のE-TTL自動調光はもちろん、高度なE-TTLワイヤレス多灯撮影もオートで行うことができます。

ここでは、550EXを組み合わせた時の簡単な撮影と、EOS-3で操作できる機能を中心に説明します。550EXの詳しい操作については、550EXの使用説明書を参照してください。



あらかじめ<A>スイッチを  
<A>に設定してください。  
また、必要に応じ、<I>ス  
イッチを<I>に設定してく  
ださい。

# 1. EOS専用スピードライト550EXを利用した撮影

キャノンスピードライト550EXを取り付けると、通常のAE撮影と同じ操作感覚で、次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。

## (1)E-TTL自動調光

E-TTL自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、AFでピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。暗いところでは、カメラを絞り優先AEにすると自動スローシクロになり、「主被写体も背景も適正露出の、雰囲気の良い自然な写真」がオートで撮影できます。



## (2)ハイスピードシンクロ（FP発光）

30秒から1/8000秒の全シャッター速度に同調するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影ができます。

## (3)FE(Flash Exposure)ロック

被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。

## (4)ストロボ調光補正

通常のAE露出補正と同じ感覚で、ストロボ光のみの調光補正を行うことができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

## (5)FEB(Flash Exposure Bracketing)撮影

ストロボ光のAEBである、FEB撮影を行うことができます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

## (6)ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影

カメラに直接取り付けられたときと同じ感覚で、(1)～(5)の機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影ができます。接続コードが不要であるため、自由に高度なライティング設定が可能です。

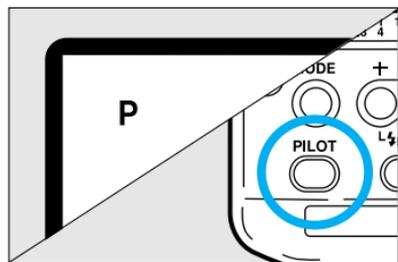


E-TTLのEは、英語のEvaluative（評価）の頭文字をとったものです。

- AF撮影のストロボ露出は、常に撮影時の絞り数値（自動あるいは手動で設定された絞り数値）を基準に、AFフレーム連動被写体重視のE-TTL自動調光で制御されます。
- ピントが合わせにくい状況では、550EXに内蔵されたエリアAF対応AF補助光が、被写体に向けて自動投光されます。

## 全自動ストロボ撮影

ここでは、〈P〉プログラムAEと組み合わせた全自動E-TTLストロボ撮影を説明します。550EXの操作については、550EXの使用説明書を参照してください。



- 1 カメラの撮影モードをPにします。
- 2 550EXのパイロットランプの点灯を確認します。
- 3 被写体にピントを合わせます。
- 4 ファインダー内の⚡の点灯と、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。



## 撮影モード別・E-TTLストロボ撮影

Tv、Av、Mの撮影モードと組み合わせたときも、ストロボを使用しない通常撮影と同じ操作でE-TTL自動調光撮影を行うことができます。

- (1) シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度や絞り数値は、通常のストロボを使用しない撮影と同じようにカメラによって設定されます。

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値（調光絞り値）の設定
Tv（シャッター優先AE）	手動（30秒～1/200秒）	自動
Av（絞り優先AE）	自動（30秒～1/200秒）	手動
M（マニュアル）	手動（30秒～1/200秒）	手動

- (2) シャッターボタンを全押しすると、(1)で設定された絞り数値を基準にした「プリ発光・記憶式評価調光」により、E-TTLストロボ撮影が行われます。
- (3) 背景の露出は、その時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせによって決まります。

### ハイスピードシンクロ（FP発光）撮影

スピードライトのハイスピードシンクロマーク（）を点灯させると、1/200秒より速いシャッター速度が設定されても、自動的に全てのシャッター速度に同調したハイスピードシンクロ（FP発光）撮影が可能になります。ハイスピードシンクロ状態になるとカメラのファインダー内にが表示され、ハイスピードシンクロであることを示します。

ハイスピードシンクロ撮影は次のような状況のポートレート撮影などで効果を発揮します。

- (1) 日中シンクロによるポートレート撮影で絞りを開いて（絞り数値を小さくして）背景をぼかす。
- (2) キャッチライトを入れる。
- (3) シャドウ部に補助光を与える。



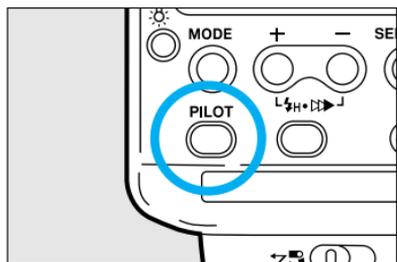
通常発光による作例



FP発光による作例

## FEロック撮影

FE(Flash Exposure)ロック撮影は被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。



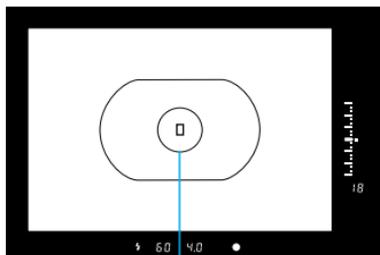
1 550EXのパイロットランプの点灯を確認します。

- 発光モードは、通常発光、ハイスピードシンクロのどちらでもかまいません。それぞれの発光モードに対応したFEロックを行うことができます。

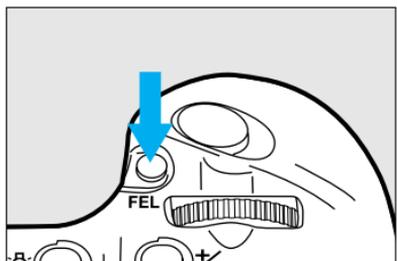
2 露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。

3 ファインダーの中央部スポット測光範囲マークを被写体に合わせて〈FEL〉ボタンを押します。(16)

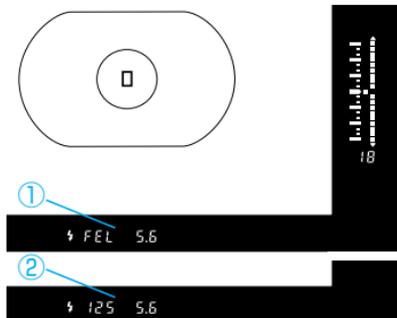
- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
- FEロックされたAFフレームが一瞬赤く光ります。



中央部スポット測光範囲マーク



## EOS専用スピードライト550EXを利用した撮影



- ファインダー内下部の表示が0.5秒間、①のようになり、そのあと②の表示になります。



### 4 構図を決めて撮影します。



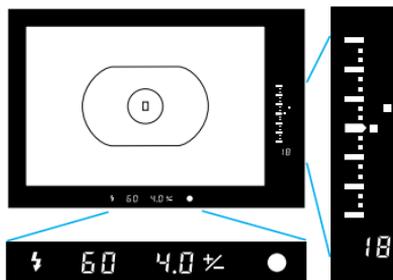
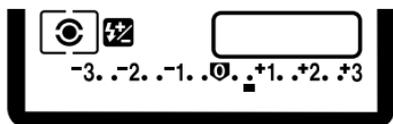
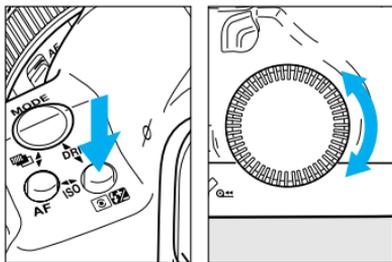
被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは⚡が点滅します。被写体に近づいて手順「3」「4」の操作をします。

**CF**

任意選択または視線入力で選択されたAFフレームでFEロックすることができます。(CF-13-1→120)

## ストロボの調光補正

専用スピードライトの自動調光レベルをカメラで補正することができます。補正量は1/3段ステップで+3段から-3段の範囲です。



1 <Fn> ボタンを押しながら <Q> ダイアルで希望する補正量を設定します。

- 表示の+側は露出オーバーを示し、-側は露出アンダーを示します。左の図は+2/3段の補正を表しています。

2 ボタンから指を離すと通常表示に戻ります。

- シャッターボタンを半押しするとファインダー内右の表示で設定した調光補正量を確認することができます。
- <Fn> ボタンを押すと設定した調光補正量を表示パネルで確認することができます。
- 調光補正を解除するときは補正量を適正露出指標 (0) に位置に戻します。

**CF** 調光補正量を1/2段ステップに変更することができます。(CF-6-2→114)



- 設定した調光補正量は <Fn> スイッチを <L> にしても記憶されています。
- キヤノンスピードライトの中には、ストロボ側でも調光補正を設定できるものがあります。これらのスピードライトとカメラの両方で調光補正を行った場合は、スピードライト側の補正が優先し、カメラによる補正は機能しません。

### FEB撮影

キャノンスピードライト550EXで設定した補正量の幅に従って自動的に発光量を変えながら3コマのストロボ撮影を行うことができます。背景の露出を変えずに、主被写体にあたるストロボの光量を1/3段ステップで+3段から-3段の範囲で変えて撮影することができます。これをFEB(Flash Exposure Bracketing)撮影といいます。



標準露出



露出アンダー (-2/3)



露出オーバー (+2/3)

- FEBの設定は550EXで行います。詳細は550EXの使用説明書を参照してください。
- 550EXで設定した補正量はカメラのファインダーで確認することができます。
- FEB撮影は550EXの充電を確認してから行ってください。□(一枚撮り)をおすすめします。

---

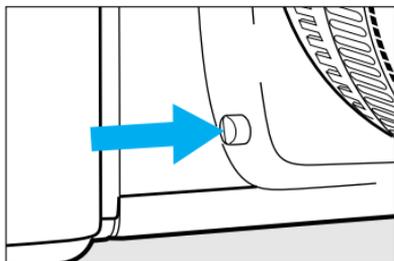
**CF** 補正量を1/2段ステップにすることができます。(CF-6-2→114)

---

### モデリング発光

ストロボ撮影による被写体の影の出方や、多灯発光によるライティングのバランスを確認することができます。

- 1 ストロボ撮影のためのカメラとストロボの設定を確認します。



2 カメラの被写界深度確認ボタンを押します。

- キヤノンスピードライト550EXが70Hzで1秒間発光します。

### ワイヤレス多灯撮影

キヤノンスピードライト550EXは、次の3つの機能を備えています。

(1)通常のE-TTL自動調光ストロボ

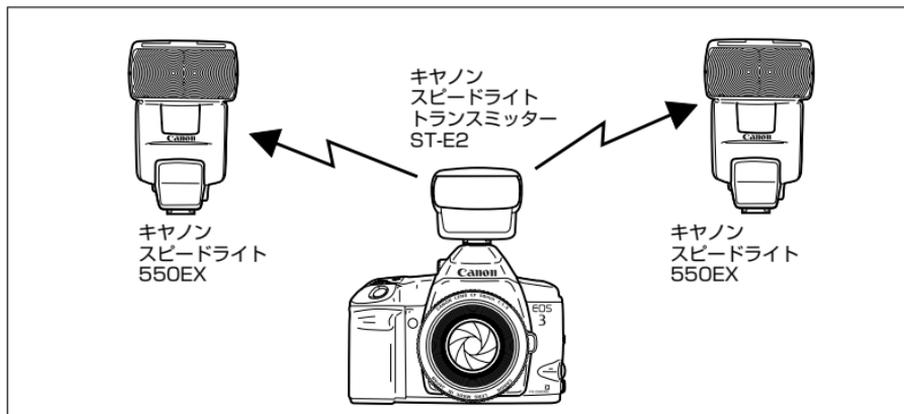
(2)スレーブストロボ

(3)スレーブ設定された550EXをワイヤレス制御するマスター機能

これらの機能を活用すると、カメラ・ストロボ間の接続コードが不要の「ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影」を簡単に行うことができます。このシステムは、3灯までの組み合わせ、メイン・サブに区分した光量比の設定など、高度で自由なストロボライティングを実現したものです。

- 詳細は、550EX、ST-E2の使用説明書を参照してください。

### ワイヤレス多灯撮影の例



## 2. その他のEOS専用スピードライトを利用した撮影

EXシリーズ以外のEOS専用スピードライトを取り付けると、通常のAE撮影と同じ操作感覚で、TTL自動調光撮影を簡単に行うことができます。ストロボ光の露出制御は、AFフレーム連動のリアルタイム・フィルム面反射測光により行われます。

(1) シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度や絞り数値は、通常のストロボを使用しない撮影と同じようにカメラによって設定されます。

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値（調光絞り値）の設定
P（プログラムAE）	自動（1/60秒～1/200秒）	自動
Tv（シャッター優先AE）	手動（30秒～1/200秒）	自動
Av（絞り優先AE）	自動（30秒～1/200秒）	手動
M（マニュアル）	手動（30秒～1/200秒）	手動

(2) シャッターボタンを全押しすると、(1)で設定された絞り数値を基準にしたTTL自動調光撮影ができます。

(3) 背景の露出は、その時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせによって決まります。



- カメラ操作による調光補正ができます。
- 接続コード式の多灯アクセサリを併用すると、TTL自動調光による多灯撮影ができます。
- 主被写体は、余裕をもってエリアAFフレーム内に入れてください。
- ストロボ調光自動低減コントロールについて  
トップライト気味の逆光状態にある被写体を専用ストロボで撮影したとき、ストロボ光による露出が不自然にならないようにするため、ストロボの発光量を自動的に減らします。この機能をストロボ調光自動低減コントロールといいます。



ストロボ調光自動低減コントロールを解除することができます。  
(CF-14-1→120)

# 3. 汎用ストロボを利用した撮影

## 同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下のシャッター速度で、スタジオ用の大型ストロボは1/125秒以下のシャッター速度で同調撮影することができます。なお、お使いになるストロボがカメラに正しく同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使いください。

## シンクロ接点について

シンクロ接点を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。シンクロ接点はコードの抜け落ちを防止するロックねじ付きです。シンクロ接点はX接点のみで、1/200秒以下のシャッター速度に同調します。



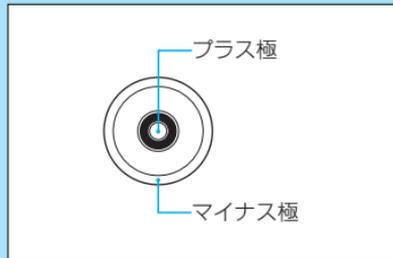
アクセサリースューとシンクロ接点にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することができます。

- このカメラにはキヤノンの専用スピードライトをお使いになることをおすすめいたします。



- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持っています）およびストロボ用付属品をお使いになると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

- スタジオ用大型ストロボの機種の中には、シンクロコードの極性がこのカメラの極性と逆のものがあります。この場合そのストロボは発光しません。ストロボメーカーに相談されるか、市販の極性変換コードを使用して極性を合わせてください。このカメラの極性は右図のようになっています。



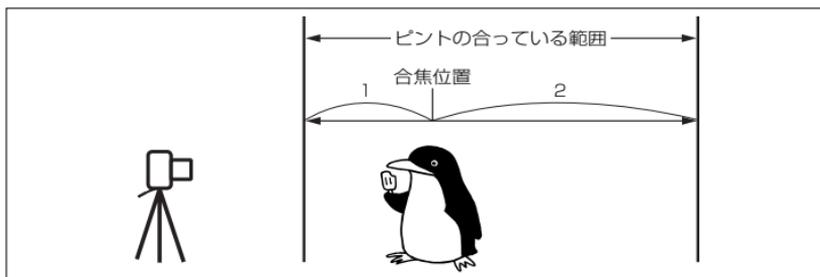
## <写真の基本用語ミニ解説 ④>

### ●被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度と言い、絞り数値を大きくする（絞りを閉じる／小口径絞り）ほどピントの合っている範囲が前後に広くなります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントの合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

- (1) 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。  
…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
- (2) 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。  
…望遠レンズより広角レンズの方が被写界深度は深くなる。
- (3) 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
- (4) 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。  
ピントの合う範囲は一般的に手前側1に対して奥側が2の割合になる。



絞り数値F22

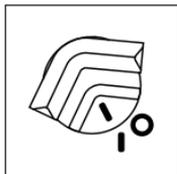
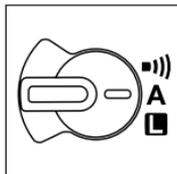
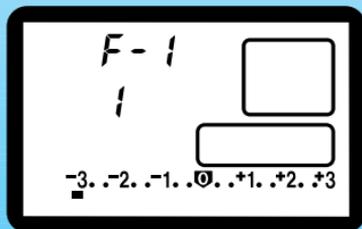


絞り数値F2

# カスタム機能

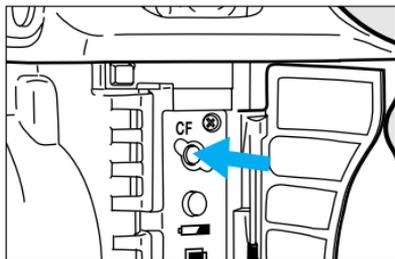
このカメラの機能は、さまざまな撮影スタイルに応じて細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

本文中では **CF** マークをつけて簡単なガイドをしましたが、ここではカスタム機能とその活用方法について詳しく説明しています。



あらかじめ〈〉スイッチを〈**A**〉に設定してください。また、必要に応じ、〈〉スイッチを〈**I**〉に設定してください。

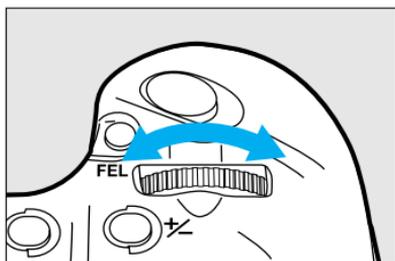
# 1. カスタム機能の設定と解除



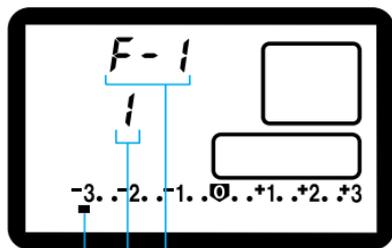
## カスタム機能の設定

1 側面カバーを開けて〈CF〉ボタンを押します。

- 表示パネルにカスタム機能番号が表示されます。



2 〈〉ダイヤルを回し希望するカスタム機能番号を選択します。



カスタム機能No.

選択番号

■による  
カスタム機能設定表示

3 〈CF〉ボタンを押して、選択したカスタム機能の変更内容に対応した数字を表示します。〈CF〉ボタンを押すたびに数字は変わります。

- カスタム機能番号  $F-n$  の内容を変更するには、〈CF〉ボタンを2秒以上押しします。(→135)。

4 シャッターボタンを半押しすると表示パネルは通常表示に戻り、カスタム機能の設定を終了します。

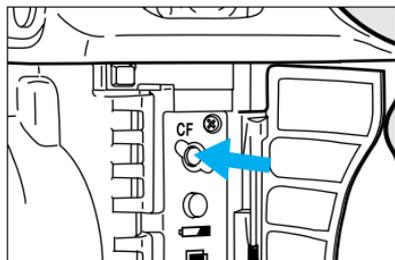
- カメラ操作中に〈CF〉ボタンを押すと設定したカスタム機能を確認することができます。



### 設定したカスタム機能の概要確認

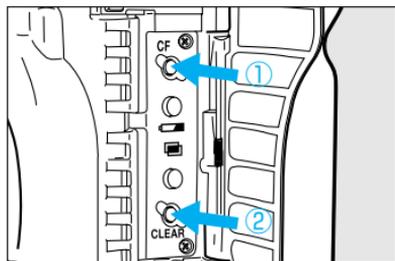
カスタム機能が設定されると図のように表示パネルの露出補正表示部に ■ が表示されます。

-3 の下の位置がカスタム機能CF-1の設定を示し、左から順に1つつつCF-17までの設定を示します。



### カスタム機能の解除

- 1 設定を解除するカスタム機能番号を選択し、表示パネルに ■ が表示されるまでカスタム機能セットボタンを押します。
- 2 シャッターボタンを半押しすると表示パネルは通常の表示に戻ります。



### カスタム機能の一括解除

カスタム機能設定中に、側面カバー内にある〈CLEAR〉ボタンを押すと、CF-0を除く全てのカスタム機能の設定を解除（0に設定）することができます。

## 2. カスタム機能で変更できる内容

カスタム機能のCF-0は、カメラの内蔵露出計をフォーカシングスクリーンの特性に合わせる項目です。使用する交換フォーカシングスクリーンに合わせて必ずセットしてください。

CF-1～CF-17は、自分の好みに合わせて自由に選択してください。

項目	カスタム機能 No.	選択番号	
フォーカシングスクリーンの特性に合わせる	CF-0	0	
		1	

項目	カスタム機能 No.	選択番号	設定・変更内容	
撮影終了後のフィルム巻き戻しの設定	CF-1	0	高速自動巻き戻し	
		1	自動巻き戻ししない。 →〈  〉ボタン押しで高速巻き戻し	
		2	静粛(低速)自動巻き戻し	
		3	自動巻き戻ししない。 →〈  〉ボタン押しで静粛巻き戻し	

対象フォーカシングスクリーン	参照頁
<p>Ec-N、Ec-R(☒：ニューレーザーマツトスクリーン)使用時にセットします。</p> <p>Ec-A、Ec-B、Ec-C、Ec-CⅡ、Ec-D、Ec-H、Ec-I、Ec-L(☒：レーザーマツトスクリーン)使用時にセットします。</p>	135

効用・備考	参照頁
<p>CF-1-1,3は、突然のフィルム巻き戻し音発生がその場の雰囲気上好ましくないときに有効です。</p>	32

項目	カスタム機能 No.	選択番号	設定・変更内容
フィルム巻き戻し完了時のフィルム先端状態	CF-2	0	パトローネ内に巻き込む
		1	残す
フィルム感度の設定	CF-3	0	DXコード自動設定
		1	手動設定
AF作動	CF-4	0	シャッターボタン半押しでAE、AF作動 ●〈*〉ボタンでAEロック
		1	〈*〉ボタンでAE、AF作動 ●シャッターボタン半押しでAEロック
		2	シャッターボタン半押しでAE、AF作動 ●〈*〉ボタンでAFロック(AEロックはしない)
		3	〈*〉ボタンでAE、AF作動(AEロックはしない) ●シャッターボタン全押しで撮影(シャッターボタン半押しでは、AEのみ作動します。)

効用・備考	参照頁
<p>自家現像処理を行う場合に有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● CF-2-1を設定した場合、背ぶたを開けてシャッターを切ると、シャッター速度は常に1/8000秒になります。</li> </ul>	32
<p>自分で確認した実効感度を設定する時などに有効です。</p> <p>フィルム装填のたびに感度修正をするわずらわしさが解消できます。</p>	30 31 83
<p>ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。</p> <p>AIサーボAF作動を、一瞬止めたいときに有効です。</p> <p>カメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、その影響を無くすることができます。露出は、撮影の瞬間に決まります。</p> <p>AIサーボAFにセットしておく、〈*〉ボタンのON/OFFだけでAIサーボAF↔ピント固定の繰り返しができるので、移動・停止を繰り返す動物撮影などに適しています。また、露出は撮影の瞬間に決まるので、ピント・露出を常時適正常態にしてシャッターチャンス待つことができます。</p>	82      40

項目	カスタム機能 No.	選択番号	設定・変更内容
マニュアル露出時のシャッター速度・絞り数値の設定	CF-5	0	シャッター速度設定: <🌀>ダイヤル 絞り数値: <🕒>ダイヤル、または<±> ボタンと<🌀>ダイヤル
		1	絞り数値設定: <🌀>ダイヤル シャッター速度: <🕒>ダイヤル、または<±> ボタンと<🌀>ダイヤル ●<🌀>ダイヤルと<🕒>ダイヤルの機能を入れ替えます。
		2	シャッター速度・絞り数値の設定はCF-5-0と同じ。絞り優先AE、マニュアル露出時、レンズを外した状態でもEOS-3で絞り数値の設定を可能にする。
		3	シャッター速度・絞り数値の設定はCF-5-1と同じ。絞り優先AE、マニュアル露出時、レンズを外した状態でもEOS-3で絞り数値の設定を可能にする。

効用・備考	参照頁
<p>大型ストロボ使用のスタジオ撮影で、絞り数値設定の操作性が向上します。また、マニュアル露出モードでAEBを行うと、シャッター速度固定、絞り数値をAEBに連動して変化させることができます。</p>	76
<p>超望遠レンズをセットし、複数台のEOS-3を交換して撮影する場合を想定、カメラ単体で絞り数値が設定できる機能。プロの助手さんのために用意しました。</p>	69 76
<p>CF-5-2の効用と同じです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● カスタム機能CF-5とCF-11と併用する場合は、125ページを参照してください。</li> </ul>	69 76

項目	カスタム機能 No.	選択番号	設定・変更内容
露出変更 基準値	CF-6	0	すべて1/3段ステップ
		1	シャッター速度・絞り数値は1段ステップ、露出補正・調光補正は1/3段ステップ
		2	すべて1/2段ステップ
USMレンズの 電子式手動フォーカス	CF-7	0	右のレンズでは、AF作動後そのまま電子式手動フォーカスができます。
		1	AF作動後の電子式手動フォーカスを禁止する。
		2	電子式手動フォーカスをすべて禁止する。
フィルム カウンター 表示	CF-8	0	順算表示
		1	逆算(残りコマ数)表示

効用・備考	参照頁
<p>露光許容幅が狭いリバーサルフィルムに対応しています。</p> <p>シャッター速度・絞り数値の系列を、従来から慣れ親しんだ1段ステップにすることができます。</p> <p>比較的露光許容幅が広いネガフィルムに適しています。</p>	<p>66 69 76</p> <p>66 69 76 80 99 100</p>
<p>EF50/1.0L USM, EF200/1.8L USM, EF400/2.8L USM, EF500/4.5L USM, EF1200/5.6L USM,</p> <p>EF85/1.2L USM, EF300/2.8L USM, EF400/2.8L II USM EF600/4L USM, EF28-80/2.8-4L USM</p> <p>ONE SHOT AF合焦後、不用意にピントがずれることを防ぎます。</p> <p>カスタム機能CF-7-0,1とCF-4-1,3の組み合わせ(→124参照)ではAF作動前に電子式手動フォーカスができますが、これも禁止します。</p> <p>*CF-7-1,2選択時に手動ピント合わせを行うには、レンズのフォーカスモードスイッチをMF(またはM)にして行います。</p>	<p>56</p> <p>56</p>
<p>フィルムの残りコマ数を確認しながら撮影することができます。</p>	<p>29</p> <p>30</p>

項目	カスタム機能 No.	選択番号	設定・変更内容
AEB撮影順/ レンズ交換・ フィルム交換・ メインスイッチ  によるAEB 解除の有無	CF-9	0  1  2  3	標準→アンダー→オーバー/ 自動解除  標準→アンダー→オーバー/ 解除しない  アンダー→標準→オーバー/ 自動解除  アンダー→標準→オーバー/ 解除しない
AFフレームの点灯	CF-10	0  1  2  3	標準点灯 ● 合焦時に一瞬明るく点灯し、 合焦後シャッター半押し中は 淡く点灯します。  すべて消灯  合焦後は消灯  明るく点灯

効用・備考	参照頁
<p>レンズ交換やフィルム交換を行っても自動解除されないため、                      &lt;最初のコマ標準のAEB撮影&gt;を何回も繰り返すときに有効です。</p> <p>&lt;露光順のAEB撮影&gt;を何回も繰り返すときに有効です。</p>	<p>80</p> <p>80</p> <p>80</p>
<p>任意選択および視線による任意選択の場合、左のようになります。                      自動選択の場合は、合焦後の淡い点灯はありません。</p> <p>AFフレームの点灯がわずらわしい場合は、消すことができます。</p> <p>標準点灯のうち、合焦後の淡い点灯を消すことができます。</p> <p>明るい撮影状況でも見やすくできます。</p>	<p>44</p> <p>44</p> <p>44</p>

項目	カスタム機能 No.	選択番号	設定・変更内容
AFフレームの 選択方法	CF-11	0	<p>〈〉ボタンと〈〉ダイヤル/            〈〉ダイヤル操作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 左右方向の選択を〈〉ダイヤル、上下方向の選択を〈〉ダイヤル操作で行います。</li> </ul>
		1	<p>〈〉ボタンと〈〉ダイヤル/            〈〉ダイヤル操作</p>
		2	<p>〈〉ダイヤル単独操作による            左右方向の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● CF-11-1と同じ操作もできません。</li> </ul>
		3	<p>〈<b>FEL</b>〉ボタンと〈〉ダイヤル/            〈〉ダイヤル操作</p>
ミラーアップ 撮影の設定	CF-12	0	しない(通常撮影)
		1	する

効用・備考	参照頁
<p>標準状態の〈〉ボタンと〈〉の機能が入れ替わり、EOS-1と同じ操作で露出補正やマニュアル露出撮影時の絞り数値の設定ができるようになります。</p> <p>EOS-1NのCF-11-2設定時と同じ感覚で左右方向のAFフレーム選択ができます。この操作は、シャッターボタン半押し中、(6)タイマー作動中、AIサーボAF連続撮影中にできます。両端に突き当たると行き止まりとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● AF作動中に、〈〉ボタンを押すと、「AFフレーム任意選択AF」から「AFフレーム自動選択AF」に切り替えることができます。任意選択から、即座に自動選択に切り替えるときに威力を発揮します。</li> </ul> <p>〈〉ボタンと〈<b>FEL</b>〉ボタンの機能を入れ替え、AEロックボタンの右隣に〈<b>FEL</b>〉ボタンを配置することができます。</p>	<p>42</p> <p>44</p> <p>40 44</p> <p>44</p>
<p>接写や超望遠撮影において、ミラー作動によるカメラぶれを防止するのに有効です。三脚の併用が必須です。</p>	<p>91</p>

項目	カスタム機能 No.	選択番号	設定・変更内容
AFフレーム連動スポット測光の設定	CF-13	0	しない ● スポット測光は、中央部スポット測光になります。
		1	する ● 11点のAFフレーム連動スポット測光になります。 AFフレーム任意選択、視線選択時に機能します。
		2	しない ● スポット測光は、中央部スポット測光になります。 ● 選択できるAFフレームは11点になります。
日中シンクロのストロボ調光自動低減コントロール	CF-14	0	する
		1	しない
ストロボシンクロタイミング	CF-15	0	先幕シンクロ ● シャッター全開直後にストロボが発光します。
		1	後幕シンクロ ● 低速シャッター速度設定時、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。

効用・備考	参照頁
<p>AFフレームを11点に限定し、選択機動性の向上を図ると同時に、AFフレーム連動のスポット測光を行うことができます。構図優先で、スポットライトを浴びた舞台撮影などをするとときに威力を発揮します。</p> <p>CF-13-0に比べ、AFフレーム選択の機動性が向上します。 (*CF-13-1,2のAFフレーム自動選択AFは常に45の測距点で行われます)。</p>	<p>60 98</p> <p>60</p>
<p>自然な日中シンクロ描写がオートで得られます。</p> <p>夕日など強い逆光下での人物撮影で、人物が露出アンダーになるのを防ぎます。</p>	<p>102</p>
<p>スローシンクロを併用し光源の軌跡を写し込むとき、自然な撮影結果が得られます。</p> <p>シンクロタイミング切り換え機能がないEXシリーズストロボで後幕シンクロができるようになります。切り換え機能内蔵のEXシリーズストロボでは、ストロボ側の設定が優先します。</p>	

項目	カスタム機能 No.	選択番号	設定・変更内容
セーフティシフトの設定	CF-16	0 1	しない  する <ul style="list-style-type: none"> <li>● シャッター優先AEと絞り優先AE撮影で機能します。</li> <li>● 設定したシャッター速度や絞り数値で適正露出が得られない場合、適正露出になるよう設定値が自動シフトする機能です。</li> </ul>
任意選択したAFフレームの領域を拡大する	CF-17	0 1 2	標準   領域拡大   領域自動設定 

効用・備考		参照頁
<p>設定値が不適切であっても、適正露出の写真をおートで撮ることができます。被写体の明るさが急に変化するとき便利です。</p>		66 69
<p>任意選択したAFフレームの範囲を上下左右1つずつ広げます。任意の1点では追従できないような不規則に変化する被写体を撮影する場合に有効です。</p> <p>使用レンズの焦点距離や、AFモード、動体予測AF時の被写体の動きなどに応じて、下表のようにカメラが自動的にAFフレームの範囲を設定します。被写体の動きが予測できないような場合に有効です。</p>		
AFモード	使用レンズの焦点距離	
	300mm未満	300mm以上
ワンショットAF	 AFフレームの自動拡大は行いません。	 1領域拡大
AIサーボAF	 被写体が低速の場合 被写体が高速の場合	 被写体が低速の場合 被写体が高速の場合

## カスタム機能で変更できる内容

### カスタム機能CF-4とCF-7の併用

カスタム機能CF-4とCF-7を併用したときの電子式手動フォーカスは以下ようになります。

カスタム機能 No.	CF-4	
	選択番号	
CF-7	0	×/○
	1	×/×
	2	×/×

\*合焦前/合焦後

○：電子リング・マニュアルフォーカス可能

×：電子リング・マニュアルフォーカス禁止

## カスタム機能CF-5とCF-11の併用

マニュアル露出モードでカスタム機能CF-5とCF-11を併用すると、シャッター速度と絞り数値の選択方法は次の表のようになります。

カスタム機能 No.	CF-5		
	選択番号	0、2	1、3
CF-11	0	シャッター速度：<  >ダイアル 絞り数値：(1)<  >ダイアル または (2)<  >ボタンと<  > ダイアル	絞り数値：<  >ダイアル シャッター速度：(1)<  >ダイアル または (2)<  >ボタンと <  >ダイアル
	1	シャッター速度：<  >ダイアル 絞り数値：(1)<  >ダイアル または (2)<  >ボタンと<  > ダイアル	絞り数値：<  >ダイアル シャッター速度：(1)<  >ダイアル または (2)<  >ボタンと <  >ダイアル
	2	シャッター速度：<  >ダイアル 絞り数値：(1)<  >ボタンと<  > ダイアル	絞り数値：<  >ダイアル シャッター速度：(1)<  >ボタンと <  >ダイアル
	3	シャッター速度：<  >ダイアル 絞り数値：(1)<  >ダイアル または (2)<  >ボタンと<  > ダイアル	絞り数値：<  >ダイアル シャッター速度：(1)<  >ダイアル または (2)<  >ボタンと <  >ダイアル

### 3. カスタム機能逆引き一覧

フィルム送り関連要望事項	機能No.	選択番号
① オートリバースをしたくない。	CF-1	1, 3
② 高速巻き戻しをしたい。	CF-1	0, 1
③ 静かな巻き戻しをしたい。	CF-1	2, 3
④ 巻き戻し完了時にリーダー部を残したい。	CF-2	1
⑤ 自分でセットしたフィルム感度を常に優先したい。	CF-3	1
⑥ フィルムの残り撮影枚数を表示したい。	CF-8	1

AF関連要望事項	機能No.	選択番号
① シャッターボタンを半押しするたびにAFが作動すると困る。	CF-4	1, 3
② シャッターボタン以外で任意にAFピント合わせがしたい。	CF-4	1, 3
③ 露出とAFピントを別々に決めたい。	CF-4	1, 3
④ 作動中のAI SERVO AFを任意の時間止めたい。(任意AFロック)	CF-4	2, 3
⑤ <✳>ボタンでAE、AI SERVO AF作動、シャッターボタンはリリース機能のみにしたい。	CF-4	3
⑥ ONE SHOT AF合焦後、そのまま電子式手動フォーカスでピントの微調整がしたい。	CF-7	0
⑦ ONE SHOT AF合焦後、不用意な電子式手動フォーカスでピントがずれると困る。	CF-7	1, 2

AF関連要望事項	機能No.	選択番号
⑧ AFフレームの点灯がわずらわしいので消したい。	CF-10	1
⑨ AFフレームの点灯を合焦した瞬間のみにしたい。	CF-10	2
⑩ AFフレームの点灯を明るくしたい。	CF-10	3
⑪ AFフレーム任意選択AFから自動選択AFに瞬時に切り換えたい。	CF-11	2
⑫ <☉>ダイヤル単独操作で、左右方向のAFフレーム選択をしたい。	CF-11	2

撮影関連要望事項	機能No.	選択番号
① マニュアル露出の絞り数値を<☂>ダイヤルで設定したい。	CF-5	1, 3
② レンズから外したカメラ単体で絞り数値の設定がしたい。	CF-5	2, 3
③ 1段ステップでシャッター速度や絞り数値の設定をしたい。	CF-6	1
④ 1/2段ステップで露出補正(調光補正)をしたい。	CF-6	2
⑤ レンズ交換やフィルム交換でAEBがキャンセルされると困る。	CF-9	1, 3

## カスタム機能逆引き一覧

撮影関連要望事項	機能No.	選択番号
⑥ AEB撮影をアンダー・標準・オーバーの順で撮影したい。	CF-9	2, 3
⑦ AFフレーム連動のスポット測光がしたい。	CF-13	1
⑧ AFフレーム任意選択の機動性を高めたい。	CF-13	1, 2
⑨ シャッター優先AEで、急激な明るさの変化があっても常に適正露出優先の自動撮影がしたい。	CF-16	1
⑩ 絞り優先AEで、急激な明るさの変化があっても常に適正露出優先の自動撮影がしたい。	CF-16	1
⑪ 後幕シンクロ撮影を行いたい。	CF-15	1
⑫ <☒>ボタンでFEL操作をしたい。	CF-11	3
⑬ 大型ストロボ使用のFEB撮影をしたい。	CF-5	1, 3
⑭ 夕日バックの人物撮影で人物を適正露出にしたい。(ストロボ調光自動低減コントロールを禁止)	CF-14	1
⑮ ブレを最小限に抑えたいのでミラーアップ撮影がしたい。	CF-12	1

# 資 料

カメラを快適に使っていただくために、この「資料」を設けました。  
撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介など  
をおこないます。

# 1. 故障かなとお考えの前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の表を参考にしてカメラをチェックしてみてください。それでも症状に変化がなければ、最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください（裏表紙にサービスセンターの一覧があります）。

症状	原因	解決方法	参照頁
表示パネルに表示が出ない	〈  〉は入っていますか？	〈  〉をAにしてください。	20
	電池が消耗していませんか？	電池を新しいものと交換してください。	25 26
	電池が逆向きに入っていますか？	電池を正しい向きに入れ直してください。	25
フィルムが装填できない	〈  〉は入っていますか？	〈  〉をAにしてください。	20
	フィルムは正しく入っていますか？（表示パネルに〈  〉が点滅していませんか？）	フィルムを正しく入れ直してください。	28 29
カメラの機能変更ができない	〈  〉は入っていますか？	〈  〉をAにしてください。	20
	〈  〉は   になっていますか？	〈  〉を   にしてください。	23
AFが作動しない	〈  〉は入っていますか？	〈  〉をAにしてください。	20
	レンズのフォーカスモードスイッチがMF（またはM）になっていませんか？	レンズのフォーカスモードスイッチをAF（またはA）にしてください。	27
	カスタム機能CF-4を1または3に設定していませんか？	カスタム機能CF-4を0に設定してください。	106

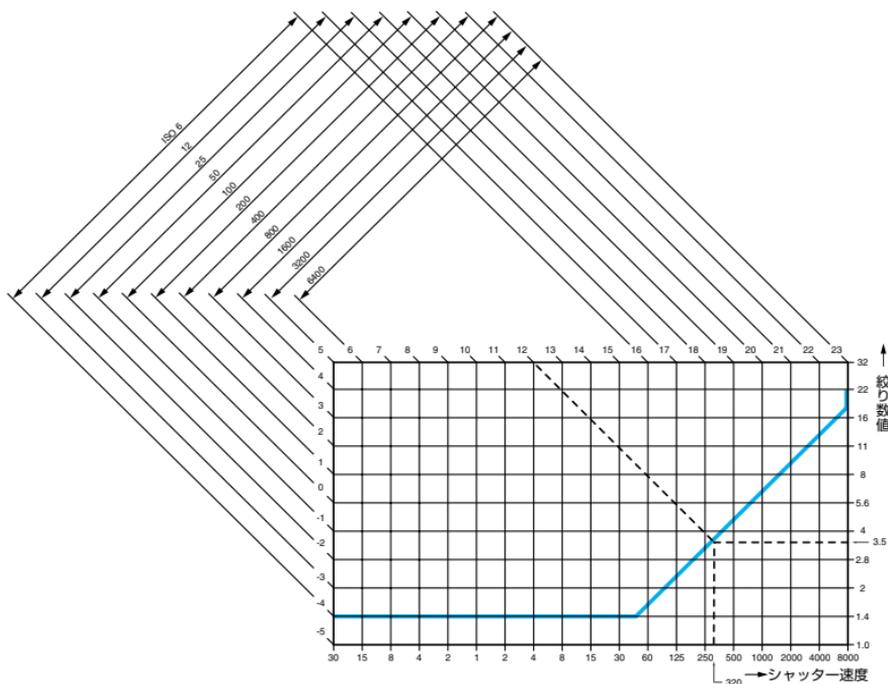
症状	原因	解決方法	参照頁
シャッターが切れない	フィルムは正しくは入っていますか？（表示パネルに〈■■■〉が点滅していませんか？）	フィルムを正しく入れ直してください。	28 29
	巻き戻されたフィルムがカメラに入っていないですか？〈Ⓚ〉が点滅していませんか？	フィルムを新しいフィルムと交換してください。	28 32
	ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦マークが点滅していませんか？）	もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときは56ページの「8. 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）」を参照してください。	21 34 56
フィルムの自動巻き戻しができない	低温下で撮影していませんか？	寒さのために電池の容量が急激に低下しています。新しい電池と交換してください。	12 25
	カスタム機能CF-1を1または3に設定していませんか？	カスタム機能CF-1を0または2に設定してください。	32 106
表示パネルにbcが点滅している	電池の容量が極端に少なくなっています。	電池を新しいものと交換してください。	11 25
	何らかの理由でカメラ、レンズまたはストロボが誤作動していると考えられます。	一度電池をカメラから取り出し再度入れ直してください。bcの点滅が消えれば正常に撮影を続けることができます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>以上の操作をしてもbcが点滅しているときはカメラまたはレンズ、ストロボの故障です。最寄りのキヤノンサービスセンターにカメラおよび装着していたレンズ、ストロボをお持ちください。</li> </ul>	11 25  裏表紙

## 2. 露出警告表示一覧

撮影モード	表示警告 (点滅)	意味	対応
P	シャッター速度30'と使用レンズの最小絞り数値 	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	シャッター速度8000と使用レンズの最大絞り数値 	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv	使用レンズの最小絞り数値 125 	露出アンダーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。
	使用レンズの最大絞り数値 125 	露出オーバーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。
Av	シャッター速度30'  5.6	露出アンダーになります。	電子ダイヤルで絞り数値を小さくしてください。
	シャッター速度8000  5.6	露出オーバーになります。	電子ダイヤルで絞り数値を大きくしてください。
DEP	セットされた絞り数値 60 	希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) ズームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
	シャッター速度30'と使用レンズの最小絞り数値 	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	シャッター速度8000と使用レンズの最大絞り数値 	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。

# 3. プログラム線図

レンズにEF50mm F1.4USMを使用して、プログラムAE (P)に設定したときのプログラム線図を次に示します。



## 図の見方

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り数値を表しています。

図の左端と上端に目盛られている被写体輝度(EV数値) の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせが色の線で示されています。

例：被写体輝度がEV12の場合、上端の12の点から右下45° の方向にのばした線とプログラム線図の交点を見ると、シャッター速度1/320、絞り数値F3.5が自動的に設定されることがわかります。

左上の斜めに引かれた矢印が示す範囲は各フィルム感度に対する測光輝度範囲です。

# 4. シャッター速度と絞り数値の表示

## ●シャッター速度の表示

シャッター速度は1/3段ステップで変わります。8000から4までは分数の分母を表しています。例えば1/25は1/25秒を表しています。また0"3は0.3秒を15"は15秒を表しています。

## ●絞り数値の表示

絞り数値は1/3段ステップで変わります。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値の範囲はレンズによって異なります。

**CF** カスタム機能CF-6で表示を1段ステップまたは1/2段ステップに変更することができます。(→114)

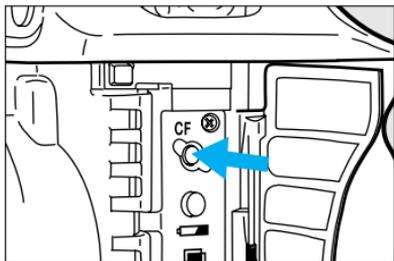
1/3段ステップ			1/2段ステップ			1段ステップ		
シャッター速度	絞り値		シャッター速度	絞り値		シャッター速度	絞り値	
8000	13	1.0	25	8000	1"	1.0	8000	1.0
6400	10	1.1	29	6000	1"5	1.2	4000	1.4
5000	8	1.2	32	4000	2"	1.4	2000	2.0
4000	6	1.4	36	3000	3"	1.8	1000	2.8
3200	5	1.6	40	2000	4"	2.0	500	4.0
2500	4	1.8	45	1500	6"	2.5	250	5.6
2000	0"3	2.0	51	1000	8"	2.8	125	8.0
1600	0"4	2.2	57	750	10"	3.5	60	11
1250	0"5	2.5	64	500	15"	4.0	30	16
1000	0"6	2.8	72	350	20"	4.5	15	22
800	0"8	3.2	81	250	30"	5.6	8	32
640	1"	3.5	91	180		6.7	4	45
500	1"3	4.0		125		8.0	0"5	64
400	1"6	4.5		90		9.5	1"	91
320	2"	5.0		60		11	2"	
250	2"5	5.6		45		13	4"	
200	3"2	6.3		30		16	8"	
160	4"	7.1		20		19	15"	
125	5"	8.0		15		22	30"	
100	6"	9.0		10		27		
80	8"	10		8		32		
60	10"	11		6		38		
50	13"	13		4		45		
40	15"	14		0"3		54		
30	20"	16		0"5		64		
25	25"	18		0"7		76		
20	30"	20				91		
15		22						

## 5. フォーカシングスクリーンを交換したとき

このカメラはフォーカシングスクリーンを撮影目的に合わせて交換することができます。お使いになるフォーカシングスクリーンのタイプに応じてカスタム機能CF-0で適正露出の基準設定を変更する必要があります。

スクリーンタイプ	スクリーンモデル	カスタム機能CF-0の設定
 :ニューレーザーマットスクリーン	Ec-N、Ec-R	0
 :レーザーマットスクリーン	Ecタイプ (A、B、C、CII、D、H、I、L)	1

- 1 側面カバーを開けて<CF>ボタンを押します。
  - カスタム機能番号が表示されます。
- 2 <☀>ダイヤルを回してカスタム機能番号 F-0 を選択します。
- 3 <CF>ボタンを2秒以上押し続け、表示パネルに変更内容に対応した数字 0 または 1 を表示します。カスタム機能セットボタンを押すたびに数字は変わります。
- 4 シャッターボタンを半押しすると表示パネルは通常の表示に戻ります。

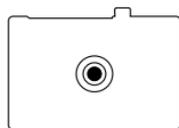


- カメラを購入したままの状態でお使いになる場合は、カスタム機能CF-0の設定を変更する必要はありません。
- フォーカシングスクリーンの交換方法は、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。
- Ec-A、Ec-B、Ec-I、Ec-Lは中央部がプリズムになっています。プリズム部を基準にした評価測光、スポット測光では適正露出が得られません。測光モードは中央部重点平均測光か中央部を除くスポット測光をお使いください。

## フォーカシングスクリーンを交換したとき

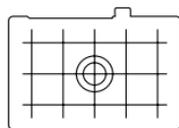
フォーカシングスクリーンEcには次のタイプがあります。

### Ec-A 標準マイクロ



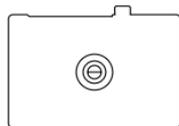
全てのEFレンズで使用可能。F5.6より暗いレンズではマイクロプリズム部にカゲリが生じます。

### Ec-D 方眼レーザーマット



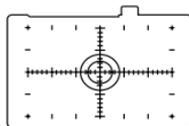
全てのEFレンズで使用可能。方眼線があるので建築写真や複写に適しています。

### Ec-B ニュースプリット



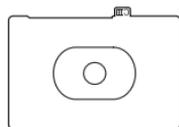
全てのEFレンズで使用可能。F5.6より暗いレンズでもスプリット部にカゲリが生じません。

### Ec-H 目盛入りレーザーマット



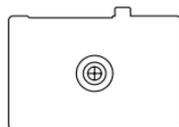
全てのEFレンズで使用可能。構図決定に便利な目盛が中央と周辺部についており接写、顕微鏡写真に適しています。

### Ec-CIII レーザーマット



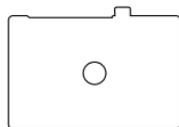
EOS-1Vの標準スクリーン  
突起部にEc-Nと見分けるためのCIIIロゴが入っています。

### Ec-I 十字入りレーザーマット



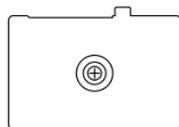
中央の十字部分でピントを合わせます。  
顕微鏡写真や天体撮影に適しています。

### Ec-CII 全面レーザーマット



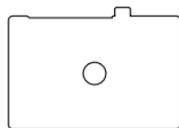
EOS-1Nの標準スクリーン

### Ec-L クロススプリット



全てのEFレンズで使用可能。縦線と横線を利用してピントを合わせます。F5.6より暗いレンズではスプリット部にカゲリが生じます。

### Ec-R ニューレーザーマット



EOS-1N RSの標準スクリーン

## 6. 主なアクセサリ



- カメラケース(EH-11L、EH-11LL)  
カメラにレンズを付けたまま収納できる、専用ケースです。



- パワードライブブースターPB-E2  
秒間最高約7コマの高速連続撮影（ニッケル水素パックNP-E2併用時）を可能とするパワーアップモータードライブユニットです。縦位置用のシャッターボタン、メイン電子ダイヤル、AEロックボタン、FEロックボタン、AFフレーム選択ボタンを備えているため、縦位置でも横位置同様の感覚で撮影することができます。バッテリーマガジンBM-E2併用時は、EOS-1N、EOS-1にも装着使用することができます。



- パワードライブブースターE1  
EOS-1N、EOS-1用に開発されたパワーアップモータードライブユニットですが、EOS-3にも装着することができます。装着時の最高連続撮影速度は、秒間約6コマ。縦位置用のシャッターボタンとAEロックボタンを備えています。



- バッテリーパックBP-E1  
グリップ内にリチウム電池2CR5を、バッテリーマガジン内にどこでも入手しやすい単3形アルカリ乾電池4本を収納、撮影状況に応じて切り換え使用ができるデュアル電源パックです。連続撮影速度は、EOS-3単体時と同じです。



### ●ニッケル水素パックNP-E2

パワードライブブースターPB-E2専用の強力な電源パックです。電源の定格は12V。500回以上の充放電繰り返し使用ができます。フル充電で36枚撮りフィルム約70本(常温)の撮影ができます。

\*この電源パックを装填したパワードライブブースターPB-E2をEOS-1N,EOS-1には使用できません。ご注意ください。



### ●ニッケル水素チャージャーNC-E2

ニッケル水素パックNP-E2専用の急速充電器(過充電防止機能付き)です。1パックの充電所要時間は約100分、一度に2パックの取り付けができます。また、二次電池特有のメモリー効果を解消する放電機能(所要時間約8.5時間)も備えています。電源はAC100~240Vにそのまま対応します。



### ●バッテリーマガジンBM-E2

パワードライブブースターPB-E2付属の専用バッテリーマガジンです。単3形アルカリ乾電池、単3形Ni-Cd電池、あるいは単3形リチウム電池を8本収納、パワードライブブースターPB-E2に装填して使用します。



### ●EXシリーズスピードライト

EOS専用ストロボとして、大光量オートズームストロボやコンパクトストロボが用意されています。どのストロボでもE-TTL自動調光、ハイスピードシンクロ（FP発光）、FEロック撮影ができます。



### ●スピードライトトランスミッター ST-E2

ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光制御用のコントローラーです。スレーブ設定された550EXを2グループまで制御することができます。作動距離範囲は、室内で約12～15m、屋外で約8～10mです。



### ●オフカメラシューコード2

550EXをカメラから約60cmまで離すことができます。クリップオン装着状態のストロボ機能のすべてをそのまま使用することができます。EX、EZ、Eシリーズストロボのすべてに使用することができます。



### ● デートバックDB-E2

サブ電子ダイヤルを装備した標準背蓋に、2019年までの液晶式オートデート機能を組み込んだEOS-3用の交換背蓋です。写し込みデータは、①年月日②日時分③写し込みなし④月日年⑤日月年のいずれかを選択することができます。



### ● 視度補正レンズEd

EOS-3のファインダー標準視度は-1dptですが、明瞭に見ることが困難な方のためにアイカップ付き視度補正レンズEdが10種類(-4dpt~+3dpt)用意されています。なお、この視度補正レンズを装着しても、視線入力AFを行うことができます。



### ● タイマーリモートコントローラーTC-80N3

①セルフタイマー②インターバルタイマー③長時間露光タイマー④撮影回数設定機能を内蔵した、コード長80cmのリモートスイッチです。時間は、1秒から99時間59分59秒まで1秒単位で設定できます。EOS-3への接続プラグはワンタッチロック式です。



### ● リモートスイッチRS-80N3

超望遠撮影、マクロ撮影、長時間露光(バルブ)撮影などにおけるカメラぶれ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は80cm。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびリリースロック機能を備えています。ワンタッチロック式接続プラグをEOS-3のリモコンソケットに接続して使用します。



### ●エクステンションコード

#### ET-1000N3

EOS-3とタイマーリモートコントローラーTC-80N3やリモートスイッチRS-80N3の間をさらに10m延長するコードです。遠隔撮影に利用します。



### ●ワイヤレスコントローラーLC-4

最大到達距離100mのワイヤレスコントローラーです。送信機と受信機で構成されています。受信機のカメラ接続プラグは、EOS-3の3端子リモコンソケット対応・ワンタッチロック式となっています。ワイヤレスコントローラーとしての諸機能はLC-3と同じです。



### ●リモートスイッチアダプター

#### RA-N3

従来のネジロック式3端子プラグを備えたリモートスイッチ60T3などを、EOS-3の新リモコンソケットに接続するためのプラグ変換アダプターです。



- EOS-3の3端子リモコンソケットは、ワンタッチロック対応の新タイプになっています。同時開発のリモートスイッチRS-80N3、タイマーリモートコントローラーTC-80N3、ワイヤレスコントローラーLC-4受信機の接続プラグなどは、そのまま取り付けることができます。取り付けると自動的にロックされます。
- EOS-3に、従来のリモートスイッチ60T3などを直接取り付けることはできません。取り付けは、リモートスイッチアダプターRA-N3を介して行ってください。

# 主な性能の一覧

<p>■ <b>型式</b></p> <p>型式</p> <p>画面サイズ</p> <p>使用レンズ</p> <p>レンズマウント</p>	<p>モータードライブ内蔵35mmフォーカルプレーンシャッターAF/AE一眼レフカメラ</p> <p>24mm×36mm</p> <p>キヤノンEFレンズ</p> <p>キヤノンEFマウント</p>
<p>■ <b>ファインダー</b></p> <p>型式</p> <p>視野率</p> <p>倍率</p> <p>標準視度</p> <p>フォーカシングスクリーン</p> <p>ミラー</p> <p>ファインダー情報</p> <p>深度確認</p>	<p>ペンタプリズム使用、アイレベル式</p> <p>上下左右とも97%</p> <p>0.72倍 (-1dpt、50mmレンズ使用時・∞)</p> <p>-1 dpt (アイポイント：19.5mm)</p> <p>交換可能 (9種類)、Ec-Nタイプ標準装備</p> <p>クイックリターン式全面ハーフミラー (反射：透過=63：37、ミラー切れ；1200mm F5.6までなし)</p> <p>(1) 視野内中央部：エリアAFフレーム、中央部スポット測光範囲マーク</p> <p>(2) 視野外下部：シャッター速度、絞り値、✱ (AEロック、AEB撮影途中2Hz 点滅)、 (視線入力AF表示、視線検出不能時点滅)、 (ストロボ充電完了、FEロック時の連動範囲外警告時点滅)、 (ハイスピードシンクロ・FP発光表示)、 (露出補正、調光補正)、● (AF合焦、AF不能時 8Hz点滅警告)</p> <p>(3) 視野外右部：露出段数目盛 (1/3段ステップ±3段)、露出レベル表示マーク (①AEモード・露出補正量、②AEロック・リアルタイム測光偏差値、③マニュアル露出レベル、④AEB露出ズレ量、⑤ストロボ撮影時の背景露出)、調光レベル表示 (①調光補正量、②FEロック・反転表示、③FEB露出ズレ量)、マルチスポット測光値、フィルム枚数表示</p> <p>被写界深度確認ボタンの操作で確認</p>
<p>■ <b>露出制御</b></p> <p>測光方式</p>	<p>21分割高感度SPC使用、TTL開放測光</p>

<p>露出制御方式</p>	<p>(1)評価測光（全ての測距点に対応）                  (2)部分測光（中央部・ファインダー画面の約8.5%相当）                  (3)中央部スポット測光（中央部・ファインダー画面の約2.4%）                  (4)スポット測光（測距点に連動したスポット測光・ファインダー画面の約 2.4%）                  *(3)(4)連写時、1コマ目：リアルタイム測光、2コマ目以降：1コマ目と同じAEロック撮影となる                  (5)マルチスポット測光（最大入力回数：8回）                  (6)中央部重点平均測光                  ①プログラムAE（プログラムシフト可）、②シャッター優先AE（1/3段ステップ、CFによるセーフティシフト機能あり）、③絞り優先AE（同上）、④深度優先AE、⑤E-TTLプログラムストロボAE（ハイスピードシンクロ・FP発光、FEロック、550EX使用時ワイヤレス制御可）、⑥A-TTLプログラムストロボAE、⑦TTLプログラムストロボAE、⑧マニュアル、⑨バルブ</p>
<p>測光範囲 使用フィルム感度</p>	<p>EV 0～20（常温・50mm f/1.4・ISO100） ISO 6～6400（DXコード自動設定ISO 25～5000）</p>
<p>露出補正</p>	<p>(1)AEB：1/3段ステップ ±3段、標準・露出アンダー・露出オーバーの順に撮影、フィルム巻き上げモードに従って繰り返し撮影可能、セルフタイマー併用時はフィルム巻き上げモードにかかわらず3コマ連続撮影                  (2)マニュアル補正：1/3段ステップ±3段、サブ電子ダイヤルあるいは露出補正ボタンとメイン電子ダイヤル操作による                  (3)AEBとマニュアル補正の併用可</p>
<p>AEロック</p>	<p>(1)オートAEロック：ONE SHOT AF・評価測光時、合焦と同時にAEロック                  (2)マニュアルAEロック：AEロックボタン押しにより全ての測光方式で可能</p>
<p>多重露出</p>	<p>9回まで予約可能、多重回数撮影後自動解除（途中解除／再設定可）</p>

## 主な性能の一覧

<p>■オートフォーカス</p> <p>型式 測距点</p> <p>測距輝度範囲 フォーカスモード</p> <p>AF合焦表示</p> <p>AFフレーム選択</p> <p>AFフレーム表示 AF補助光</p>	<p>CMOSセンサーによるTTL-AREA-SIR方式 45点エリアAF CFによる11点限定のAF可 EV 0~ 18 (ISO 100)</p> <p>(1) ONE SHOT AF：測距完了で停止、AFロック、測距完了後リリース可</p> <p>(2) 動体予測・AI SERVO AF：実際の露光開始まで被写体の移動に追従作動、動体予測機能装備、測距完了にかかわらず随時リリース可（連写時は 予測駆動優先制御）、合焦表示なし、測距NG時のみ8Hz点減表示</p> <p>(3) マニュアル：レンズのフォーカスモードスイッチをMF（またはM）にし、手動フォーカスリングを操作することにより可能</p> <p>(4) マニュアル：露光中を除き、連続撮影中の電子リングによるマニュアルフォーカス可</p> <p>ファインダー内AF合焦マーク（●）表示、および電子ブザー音による合焦音の有無・選択可</p> <p>(1) 自動選択AF：カメラによる自動選択 (2) 手動選択AF：任意の1点を手動選択 (3) 視線入力AF：視線入力によるAFフレームの選択</p> <p>ファインダー内スーパーインポーズ表示による専用ストロボ使用時、必要に応じてストロボから自動投光</p>
<p>■シャッター</p> <p>型式</p> <p>シャッター速度</p> <p>リリース方式 セルフタイマー</p>	<p>全速電子制御・縦走りフォーカルプレーンシャッター</p> <p>1/8000秒~30秒（1/3段ステップ）、X同調最高速度1/200秒</p> <p>ソフトタッチ電磁リリース</p> <p>電子制御式、時限10秒/2秒を選択、表示ランプ点減（作動開始時2Hz、リリース前2秒8Hz）、表示パネル秒時減算で作動表示、メインスイッチLで解除可</p>

<p><b>■ フィルム巻き上げ関係</b></p> <p>フィルム装填</p> <p>巻き上げ方式</p> <p>巻き上げ本数</p> <p>フィルム巻き戻し</p>	<p>自動、フィルムセット後、背ぶたを閉じると1コマ目まで自動空送りし停止 (約1秒)</p> <p>内蔵モータによる自動巻き上げ</p> <p>(1)EOS-3単体：□ (一枚撮り)、 (連続撮影) の2モード</p> <p>(2)パワードライブブースターPB-E2装着時：□ (一枚撮り)、 (低速連続撮影)、 (高速連続撮影) の3モード</p> <p>24枚撮りフィルム/ (36枚撮りフィルム)</p> <p>常温 (+20℃) 約75本/ (約50本)、低温 (-20℃) 約18本/ (約12本)</p> <p>EF50mmF1.4USMレンズ、シャッター速度 1/1000秒、視線入力ON、フィルム巻き上げモードにて、[各コマ毎に無限遠から至近間を一往復させた後、シャッターボタン半押し6秒、撮影、撮影後2秒タイマー] を1作動として連続撮影後、高速巻き戻しして実施</p> <p>フィルム終了と同時に内蔵モーターにより自動巻き戻し/途中巻き戻し可能</p> <p>巻き戻し時間：約4.5秒 (24枚撮りフィルム)、約6.5秒 (36枚撮りフィルム) 作動音：59dB (高速巻き戻し時)、49dB (サイレントモード時)</p>
<p><b>■ 本体関係</b></p> <p>フラッシュ接点</p> <p>外付けストロボシステム対応カスタム機能</p>	<p>(1)アクセサリシュー部：X・直結接点</p> <p>(2)本体右側面下部：JIS B型ソケット (ロックねじ付き)</p> <p>* (1)(2)同時使用、同時発光可</p> <p>E-TTL自動調光、A-TTL自動調光、TTL自動調光</p> <p>18種内蔵、選択設定可 (0) フォーカシングスクリーン特性の設定、(1) フィルム自動巻き戻しの設定、(2) フィルム巻き戻し終了時のフィルム先端状態、(3) フィルム感度の設定、(4) AF作動の変更、(5) マニュアル時のシャッター速度、絞り値の設定方法、(6) シャッター速度、絞り値、露出補正值、調光補正值、AEBの表示ステップ、(7) 電子式手動フォー</p>

## 主な性能の一覧

表示パネル	カスリングでの手動ピント合わせ、(8) フィルムカウンターの設定、(9) AEB撮影順、(10) AFフレームのスーパーインポーズ表示設定、(11) AFフレームの選択方法、(12) ミラーアップ撮影、(13) AFフレーム連動スポット測光の設定、(14) 日中シンクロストロボ発光コントロール、(15) 同調タイミングの設定、(16) シャッター優先AE、絞り優先AE時のセーフティーシフト、(17) 任意選択したAFフレームの領域拡大
リモートコントロール	撮影、測光、AF、フィルム巻き上げの各モード、シャッター速度、絞り値、撮影コマ数、電池容量チェックなどを表示、照明機能内蔵
電源	ワンタッチロック式・3端子リモートコントロール接点標準装備
電池チェック	(1) リチウム電池 2CR5、1個をグリップ部電池室に収納 (2) パワードライブブースターPB-E2装着時はカメラからグリップを取り外し、PB-E2用電源（単3形アルカリ乾電池・単3形Ni-Cd電池・単3形リチウム電池、8本またはNi-MHパックNP-E2）から供給 (3) バッテリーパックBP-E1装着時はカメラからグリップを取り外し、BP-E1用電源（リチウム電池2CR5 1個、単3形アルカリ乾電池4本または単3形Ni-Cd電池4本）から供給
背ぶた 大きさ 質量	バッテリーチェックボタン押し、表示パネルに4段階表示 デートバックDB-E2（別売）と交換可能 161(W)×119.2(H)×70.8(D) mm 780g（本体のみ、リチウム電池を除く）

- ここに記載のデータはすべて当社試験基準によります。
- 都合により製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

# カスタム機能シールマーク一覧

カスタム機能No.	シールマーク				カスタム機能No.	シールマーク			
	0	1	2	3		0	1	2	3
CF-0					CF-9				
CF-1					CF-10				
CF-2					CF-11				
CF-3	ISO DX	ISO M			CF-12				
CF-4	●AF ●AEL	●AEL ●AEAF	●AF ●AFL	●AE ●AEAF	CF-13				
CF-5					CF-14				
CF-6	1/3 STEP	1 STEP	1/2 STEP		CF-15				
CF-7	AF MF	AF M	AF		CF-16				
CF-8					CF-17				

- カスタム機能を活用していただくために上記のシールマークを用意してあります。側面カバーの内側に貼ってお使いください。
- 詳しくは本文108～123ページを参照してください。